

平成30年度

# 入賞作品集

「少年の主張」  
中学生  
話し方大会

「家庭の日」  
に関する  
作文・図画



広島県の青少年の  
マスコット  
ゆっぴー

# 青少年育成の基本指針

(昭和52年6月1日青少年育成広島県民会議制定)

## 前 文

「青少年は日本の希望である」という言葉は、われわれの心を支えている標語である。ところが、青少年の非行が問題になると、明確な実施効果の見定めもつかぬままに、条例や法律の制定に期待の高まるのが実状である。しかし、青少年の非行が大人の生活の反映であるとするれば、青少年の健全育成は、大人の反省なしには実現しないであろう。大人がかつて青少年であったように、青少年はやがて大人になるのである。人間の生涯は、多様な価値観の個性的選択による自己教育の連続であるといえよう。

ここに制定された青少年育成の基本指針は、ただ青少年育成のあり方を抽象的に示したものに過ぎない。それは、各地域の実状に応じて具体化されることが期待される。総括的にいえば、資源の乏しさを克服して、相当高い生活水準に到達している現代日本において、青少年は将来どのような展望をもって進んだらよいか、これが最大の課題である。

われわれは、青少年の前途に幸福の「青い鳥」の夢を託したい。

## 青少年育成の基本指針

### (個人)

一 個性の独自性に対する自覚にもとづき、その価値可能性を錬磨し、生涯教育の基礎をつくる。

### (社会)

一 家庭の愛情にはぐくまれ、社会生活において、友情と連帯の意識を養う。

### (自然)

一 国土の自然を愛護するとともに、地域社会の文化を尊重し、環境の教育的整備につとめる。

### (世界)

一 諸民族の生活と文化を理解し、平和と親善の心をこめて、国際交流に寄与する。

### (総括)

一 日々の生活のなかに、生きがいを求めてわが道を行き、一隅を照らす光となる。

# は じ め に

「少年の主張」・中学生話し方広島大会 2018（第 40 回「少年の主張」広島県大会，第 52 回中学生話し方大会）を広島県中学校話し方連盟と共催で，平成 30 年 9 月 8 日（土）に開催しました。

今大会には，県内中学校の 42 校から 3,595 編の応募があり，その中から原稿審査を通過した 22 名が，それぞれの主張を力強く発表しました。

発表内容としては，身近なことの体験と感想を基に掘り下げて自分の意見を作り出している人が多かったように思います。そして自分が見つけた考えや意見をこれからの自分の生き方に生かしていこうとしています。態度はしっかりと，明るく，とても良い発表ができていました。

この作品集には，発表者全員の顔写真と，その中で特に優秀な成績を修めた 11 人の発表内容を記録しております。

「家庭の日」に関する作文・図画は，県内の小・中学生を対象に募集を行い，県内の小学校 67 校，中学校 39 校から作文・図画を合せて 2,160 作品の応募がありました。

これらの作品は，日常生活において家族と自分とのかかわり方で感動したこと，家族に感謝している心や存在の大切さなど，自分の気持ちを素直に純粋に表現しています。

応募作品の中から事前審査を通過した作文 30 作品，図画 371 作品を厳正に審査し，特選作文 3 作品，特選図画 1 作品，入選作文 20 作品，入選図画 5 作品を掲載しております。

この作品集を多くの皆様にご覧いただき，小・中学生の思いを受けとめていただければ幸いです。

終わりに，この事業の実施に当たりご協賛いただいた国際ソロプチミスト広島，広島清流ライオンズクラブ，公益財団法人広島青少年文化センター及び県内 13 ロータリークラブ並びにご協力いただいた関係者の皆様方に深く感謝申し上げますとともに，今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 30 年 12 月

公益社団法人青少年育成広島県民会議

会 長 上 田 宗 岡

## 「少年の主張」に関する目次

○第40回「少年の主張」広島県大会・第52回中学生話し方大会会場風景	1
○第40回「少年の主張」広島県大会・第52回中学生話し方大会発表者一覧	2
○受賞者一覧	
<b>広島県知事賞</b>	
手話は言葉	東広島市立八本松中学校 3年 おおもり はな 大森 葉和 …… 5
<b>公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞</b>	
あなたは どうしますか？	庄原市立高野中学校 3年 まえだ あかね 前田 茜 …… 6
<b>広島県中学校話し方連盟会長賞</b>	
「してあげる」と「させていただく」	修道中学校 3年 なかむら あおい 中村 碧 …… 7
<b>国際ソロプチミスト広島会長賞</b>	
二つの国、それぞれの思い	三次市立塩町中学校 3年 おおおか りこ 大岡 莉子 …… 8
<b>広島清流ライオンズクラブ会長賞</b>	
「仲良くしないで。」	広島市立国泰寺中学校 2年 やました みう 山下 美羽 …… 9
<b>優 秀 賞</b>	
今の私にできること	広島県立広島中学校 2年 みやけ ゆい 三宅 結衣 …… 10
ふるさと「比和」のためにできること	庄原市立比和中学校 3年 ながた せな 永田 星那 …… 11
心の叫び	広島市立井口中学校 3年 おかだ りさ 岡田 莉紗 …… 12
食べられることのありがたさ	庄原市立口和中学校 3年 いしだ こうすけ 石田 浩祐 …… 13
挑戦から生まれた挑戦	三次市立布野中学校 3年 おだ かずき 小田 和生 …… 14
私たちから…	竹原市立賀茂川中学校 3年 ありた みさき 有田 美妃 …… 15
○講 評	
審査委員長 山本 名嘉子 東京教育研究所主任研究員・広島教育実践研究所代表	16
○第40回「少年の主張」広島県大会・第52回中学生話し方大会開催要領	18
○審査員及び審査基準	20
○第40回「少年の主張」全国大会～わたしの主張2018～内閣総理大臣賞 受賞作品	
人生を駆け抜ける	山形県天童市立第三中学校 3年 いわぶち あやめ 岩淵 礼姫 …… 21

# 「家庭の日」に関する目次

## 特選（広島県知事賞）

### ●作文の部

お母さんの四つのたから物	東広島市立三ツ城小学校	4年	ありみつ 有光	さくら 咲愛	……………	22
お母さん	三原市立久井中学校	2年	まえ 前	さくら 咲玖良	……………	23
家族でつくる無限大	廿日市市立阿品台中学校	3年	うえ 上田	ゆみ 由未	……………	24

### ●図画の部

おおいたのおんせんにかぞくとはいった。	広島市立宇品小学校	1年	ねづ 根津	ななみ 七海	……………	45
---------------------	-----------	----	-------	--------	-------	----

## 入選（公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞）

### ●作文の部

あかちゃんがやってきた	広島市立牛田小学校	1年	どばし 土橋	れな 令奈	……………	25
いつもいっしょに	東広島市立龍王小学校	2年	ながわ 長和	みなと 湊斗	……………	26
仕事でがんばるお父さん	東広島市立小谷小学校	3年	はっぽう 八方	よういち 陽一	……………	27
わが家へようこそ	呉市立荘山田小学校	3年	ふじもと 藤本	ま凛 真凛	……………	28
お父さん、あのね	広島市立牛田小学校	5年	さえき 佐伯	ゆりこ 百合子	……………	29
お母さんのいない生活	東広島市立三ツ城小学校	5年	きのした 木下	ひまわり 向日葵	……………	30
あの日の夜から	東広島市立三ツ城小学校	5年	さとう 佐藤	まこ 真子	……………	31
夫婦って面白い	東広島市立寺西小学校	6年	つがわ 津川	ま衣 真衣	……………	32
大好きな神楽と家族	三次市立作木小学校	6年	ふじおか 藤岡	ちひろ 千尋	……………	33
弟のいないプール	廿日市市立野坂中学校	1年	かみおか 神岡	わかな 和奏	……………	34
雷オヤジ	庄原市立庄原中学校	1年	たけひろ 武広	むつき 陸希	……………	35
フラダンスと共に	広島市立東原中学校	1年	たつぎ 辰崎	りゅうぢ 竜地	……………	36
家庭の味と家族の思い出	庄原市立庄原中学校	1年	てらもと 寺本	もえか 萌夏	……………	37
本好き家族	広島市立宇品中学校	2年	いとう 伊藤	はるか 悠	……………	38
私がここにいるのは	広島市立中広中学校	2年	しばた 柴田	りお 理桜	……………	39
言葉の意味	東広島市立松賀中学校	2年	ほうさき 寶崎	さら さら	……………	40
頑固な母	東広島市立松賀中学校	2年	まつもと 松本	しずく 静句	……………	41
「感謝」	呉市立呉中央中学校	3年	しおみ 塩見	ゆりか 優莉香	……………	42
私のおじいちゃん	熊野町立熊野東中学校	3年	ふじかわ 藤川	あいか 愛加	……………	43
お母さんへ	広島市立宇品中学校	3年	もんてん 門田	はるな 明那	……………	44

### ●図画の部

お父さんと、水やりをした絵をかきました。	東広島市立小谷小学校	2年	こんどう 近藤	りょうや 良弥	……………	46
キャンプに行つて、ながればしを見たよ。	広島市立翠町小学校	2年	まとは 的場	そうき 創輝	……………	46
家族で打ち上げ花火を見に行きました。	福山市立多治米小学校	3年	すぎた 杉田	くから 紅桜	……………	46
弟が生まれおそろおそろ触ろうとしている所	広島市立宇品小学校	5年	おおにし 大西	なつき 菜月	……………	46
家族で力を合わせ表彰台に上がりました。	広島市立古田台小学校	5年	たかはし 高橋	ももか 李佳	……………	46

平成30年度「家庭の日」作文・図画募集要綱	……………	47
審査員名簿及び審査要領	……………	48
平成30年度応募校一覧	……………	49

# 「少年の主張」・中学生話し方大会 2018

日時：平成30年9月8日（土）9：00～15：30  
場所：エソール広島（広島市中区富士見町11-6）



集合写真



大会開始前の客席



審査委員・会場風景



主催者及び来賓登壇



表彰式の風景

# 発表者一覧



基準  
『積極的に関わること』

広島市立国泰寺中学校  
1年 小林 百花



1番  
『今の私にできること』

広島県立広島中学校  
2年 三宅 結衣



2番  
『謝ることの大切さ』

広島市立伴中学校  
1年 藤井 美琴



3番  
『立ちあがる復興の街、  
広島』

山陽女学園中等部  
3年 山崎 早織



4番  
『みんなの思い  
この一球に』

尾道市立栗原中学校  
1年 河尻 梨歩



5番  
『楽しい素読の集いに  
参加して』

広島城北中学校  
1年 奥 泰徳



6番  
『これからの日本と  
外国の未来』

三次市立八次中学校  
3年 斉藤日向子



7番  
『使う？使われる？  
使われない？』

広島市立亀山中学校  
2年 石田明早陽



8番  
『少しの勇気で  
変わる未来』

北広島町立千代田中学校  
2年 木村 琴美



10番  
『あなたは  
どうしますか？』

庄原市立高野中学校  
3年 前田 茜



11番  
『二つの国、  
それぞれの思い』

三次市立塩町中学校  
3年 <sup>おおおか</sup>大岡 <sup>りこ</sup>莉子



12番  
『手話は言葉』

東広島市立八本松中学校  
3年 <sup>おおもり</sup>大森 <sup>はな</sup>葉和



13番  
『「してあげる」と  
「させていただく」』

修道中学校  
3年 <sup>なかむら</sup>中村 <sup>あおい</sup>碧



14番  
『恩返しのかたち』

北広島町立豊平中学校  
3年 <sup>かい</sup>甲斐さくら



15番  
『ふるさと「比和」のために  
できること』

庄原市立比和中学校  
3年 <sup>ながた</sup>永田 <sup>せな</sup>星那



16番  
『心の叫び』

広島市立井口中学校  
3年 <sup>おかだ</sup>岡田 <sup>りさ</sup>莉紗



17番  
『大切にしたい言葉』

坂町立坂中学校  
2年 <sup>ほりうち</sup>堀内 <sup>あい</sup>愛良



18番  
『夢のでき方・叶え方』

尾道市立長江中学校  
3年 <sup>しみず</sup>清水 <sup>かなみ</sup>奏海



19番  
『限界集落に生きる』

三次市立吉舎中学校  
3年 <sup>ながはた</sup>長畑 <sup>さや</sup>桜弥



20番  
『食べられることの  
ありがたさ』

庄原市立口和中学校  
3年 <sup>いしだ</sup>石田 <sup>こうすけ</sup>浩祐



21番  
『仲良くしないで。』

広島市立国泰寺中学校  
2年 <sup>やました</sup>山下 <sup>みう</sup>美羽



23番  
『挑戦から生まれた  
挑戦』

三次市立布野中学校  
3年 <sup>おだ</sup>小田 <sup>かずき</sup>和生



24番  
『私たちから…』

竹原市立賀茂川中学校  
3年 <sup>ありた</sup>有田 <sup>みさき</sup>美妃

9番 欠席  
『ロボット社会における人間の未来とは』

尾道市立瀬戸田中学校 1年 <sup>かねもと</sup>金本 <sup>ちひろ</sup>知大

22番 欠席  
『その一秒の瞬間』

北広島町立芸北中学校 3年 <sup>おだ</sup>小田 <sup>りせ</sup>梨世

## アトラクション



広島市立東原中学校吹奏楽部のみなさんに演奏していただきました。

指揮・顧問 古本 茂      顧問 土井 彩華

### 演奏曲

- |                     |            |
|---------------------|------------|
| 1. 吹奏楽のための<br>「ワルツ」 | 4. 「西郷どん」  |
| 2. ファンファーレ          | 5. 「ふるさと」  |
| 3. 「それ行けカープ」        | 6. 「ヤングマン」 |
|                     | 7. 「小さな世界」 |

## 広島県知事賞



### 手話は言葉

東広島市立八本松中学校

3年 おおもりはな  
大森葉和

「よろしくお願いします」

これは私が初めて覚えた手話です。母は少し手話ができます。その母に教わったのです。

常々母は「手話は言葉なのよ。」と言っていました。その意味を深く考えたことはありませんでした。

中学1年の春休み、私は母に誘われて手話サークルに行きました。訳も分からず不安を感じながら参加したサークルの、その日の内容は料理でした。エプロンをつけていると、誰かが私の肩をたたきました。振り返ると、50代くらいの優しそうな女性がにこにこして、

「こんにちは。」と手話をしながら言われたので、私は、「あれ？」と思いました。手話サークルには耳の不自由な人ばかりいるのだと思っていたからです。誰でも自由に参加できるのです。

「今日は一緒にがんばろうね。」と手話で言われ、「よろしくお願いします。」と手話で返しました。よく見ると、この女性の他にも多くのボランティアの方が携わっているのが分かりました。

その後、料理を作りました。メニューは、レモンうどんとカボチャのケーキです。先ほどの女性と私と母と60代くらいの男性と若い女性が同じ班でした。見た目には全然わからなかったのですが、60代くらいの男性と若い女性は耳が不自由でした。

若い女性が私に手話をしてきました。

「あなたは、中学生？」母が通訳してくれました。

「何部に入っているの？」と女性が手話で尋ねました。私は筆で字を書く場面をイメージして、「書道部です。」と小さくジェスチャーしました。なんだかとても恥ずかしかったのです。しかしジェスチャーが小さく女性には伝わりませんでした。

そこで口を大きく開けて「書道部」と言うと、その口の動きを見て理解してくれました。すると今度はその女性が「『書道部』はこうやって伝えるんだよ。」と手話でお手本を見せてくれました。私はその手の動きに目を奪われました。力強くてなめらかでそれはまさしく言葉でした。そのとき私は、母の言った「手話は言葉なのよ」ということを理解したのです。私は「書道部」という手話をいろいろな人に伝えているうちに楽しくなってきました。手話で思いが伝わるのが楽しいのです。

そこで私は同じ班のあの男性に冷蔵庫から取り出すものを「これでいいですか。」と身振り手振りで尋ねてみました。すると「それでいいよ。」と笑顔と手話で応えてくれました。この手の動きはとてもきりっとしていて、優しい笑顔がすてきでした。この男性の手話は、先ほどの女性の手話とはまた違う動きでした。私たちが話す言葉が人によって違うように、手話の動きにもその人独特の個性があるのだと分かりました。

帰りの車で今日のことを母に話すと、母は「手話は、手と顔で伝える言葉なのよ。」と教えてくれました。母の言葉に納得するとともに、自分の世界が広がった気がしました。

手話をするとということは手話という言葉で会話することなのです。

私はふと、母はなぜ手話をしているのかと思い尋ねました。すると母は、

「身近に耳が不自由な人がいてね。手話ができたら便利だし、福祉の仕事にも役立つと思ったんよ。それに手話を知っていると、私たちの生活にも役立つんよ。」

と答えました。実際私の家では、簡単な手話を使って会話をしたりします。

「トイレに行こう。」

「次はどうする？」

などです。手話はうるさい場所でも会話できるからです。また、身振り手振りを使うので小さい子にも分かりやすく説明できます。手話について関心をもち、手話を体験できる機会がもっとあれば通じ合える楽しさが分かるのと思います。私はもっと手話を覚えて、会話する喜びを味わいたいと思います。

# 公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞



## あなたはどうしますか？

庄原市立高野中学校

3年 <sup>まえ</sup>前 <sup>だ</sup>田 <sup>あかね</sup>茜

あなたは必要があれば臓器移植を望みますか。

あなたは他の誰かのために臓器提供をすることができますか。

あなたは大切な人の臓器を他の誰かのために提供することができますか。

私は小さいときから看護師になるのが夢です。誰かの役に立ちたい、人を助けたいという思いがずっとあるので、もし私が脳死や心停止になったら臓器提供をしたいと思っています。臓器提供とは、人が脳死や心停止という状態になったとき、その人の臓器を提供することを言います。私の臓器提供で助かる命があるなら臓器提供をしたい。もし臓器移植が必要な立場なら臓器提供してほしいと思います。しかし、大切な人の臓器を提供するとなると、考えてしまいます。

私は、父に「もし私が事故に遭って臓器が必要になったらどうする？」と聞いたことがあります。その時父は「俺の心臓でも胃でもお前にやるよ」と言ってくれました。だから私はこう聞いてみました。「もし私が脳死や心停止になったら私の臓器を必要としている誰かに提供してねって言うたらどうする。」と。すると、当分父は考え「俺は、茜の『人を助けたい』『人のためになりたい』という意見を尊重して臓器提供してやる」と言ってくれました。父を試したわけではないのですが、父が私の思いを尊重してくれたことをとても嬉しく思いました。しかし、私は父の臓器を提供するのは嫌です。なぜなら今までたくさんのことをしてくれてきた父だから。たくさんのことを共にしてきた父だから。私の父は父しかいないからです。そして、そんな父の臓器を提供してしまえば、父との今までの思い出が消えてしまう気がするからです。

私は誰かのためになるなら臓器提供したいけど、父の臓器は提供したくない、そんな矛盾する二つの思いに気づきました。そして、臓器提供について考えるようになったのです。

私は、移植のチャンスを待っている中で亡くなってしまった大学生のことを知りました。

昨年の12月26日。早稲田大学1年生の鈴木大樹さん。20歳。大樹さんは、「左心室緻密化障害」という重い病気を抱えていました。心臓移植よりほかに治療の道はなく高校3年生から補助人工心臓を体に植え込み移植のチャンスを待っていたのです。しかし、希望は叶うことなく重度の不整脈を起こして自宅で亡くなりました。

大樹さんもその家族もどんな気持ちで移植のチャンスを待っていたのでしょうか。大樹さんの家族や友人、恋人は最後にどんなことを大樹さんに語りかけお別れをしたのでしょうか。臓器提供を受けることができず天に昇っていった命、それはそれははかないものです。

この人たちを救うにはまだまだドナーは足りません。移植のチャンスを待っている人たちは、1日1日を一生懸命に生きています。そんな人たちに対して、「移植を待つ人や、その家族は誰かが死ぬのを待っている」と心ないことを言う人も世の中にはいるそうです。臓器提供は、移植してもらった人、その家族にも幸せを運ぶものなのに、後悔や悲しみなど複雑な気持ちをも生ませている現状があります。

私は、「臓器提供」で助かる命があるということ、そして、それによって体が楽になっても心がしんどくなる人もいるということを知ってほしいです。また、無責任な言葉が減って「臓器提供」に対する共感が広まることを心から願っています。

その一方で、やはり父の臓器は提供したくないという私もあります。きっと皆さんの中にも私と同じように「自分の臓器を提供するのはいいけど大切な人ののは嫌だ」と言う人や「自分の臓器も大切な人の臓器も提供したくない」と言う人もいると思います。それはその人の命、意思なので大切にしなければなりません。臓器提供はすごく重いものです。簡単に決めることはできません。しかし、何も知らないまま、考えないままでは絶対にいけないと思います。

だから私は、臓器提供を心に重く受け止め、これからも、私のここにある命、今関わっている人の命、これから関わる人の命を大切にして、臓器提供について考えていきたいです。

# 広島県中学校話し方連盟会長賞



## 「してあげる」と「させていただく」

修道中学校

3年 なか **中** むら **村** あおい **碧**

みなさんは、「してあげる」と「させていただく」と聞いて、何を思い浮かべますか。私は、この夏の悲しく、かつ忘れられない、貴重な体験の中でこの言葉に出会いました。

それは、2か月前の今年7月に発生した、西日本豪雨災害。決して遠い記憶ではありません。地面に叩きつける雨粒の大きな音、道路を流れる土砂や流木、辺りを漂う生臭い土の臭い。その全てが私の体験した事のない恐怖を覚えるものでした。

私は広島市安芸区矢野町に住んでいます。幸いにも、私の自宅に大きな被害はありませんでしたが、矢野の被害の大きさは想像以上でした。私の母校である矢野南小学校は避難所となっており、私が通っていた頃とは違う物々しい雰囲気でした。

目の前の惨状と矢野で災害が起こってしまったショックに言葉が出なくなり、体が震えました。

私は早速、町内の土砂崩れが発生した場所で復旧作業に参加しました。町の人達と一緒に、土のうを積んで、濁流が家に流れ込まないようにしたり、家の庭にたまった泥をかき出したりしました。50人位の方々が、少しでも早く復興させたいという焦りで、休みなく作業していました。すると、一人の防災士の方が、みんなを集めてこう言われたのです。「ボランティアは、してあげているのではない、させていだけているんです。冷静に、そして、謙虚に作業をしましょう。」

私はこの「させていただく」という言葉が、深く心に残りました。ボランティアをしてあげているという気持ちがあると、謙虚さを欠き、人からの指示に素直に従わなくなり、自分が怪我をしたり、人に迷惑をかけたりしてしまうのです。

また、私は今、中学校の野球班でキャプテンをしています。ある日、こんなことがありました。それは、私が練習の準備をしていた時のことです。私は一人のチームメイトから、

「準備、手伝ってあげようか。」

と言われました。私は、準備はメンバー全員の仕事であって、誰かが誰かを手伝ってあげるものではなく、自ら進んでするものだ、ということに彼に言いました。彼は私の考えを分かってくれて、それ以来、準備を積極的にしてくれるようになりました。この経験があったので、被災された方々のために、謙虚に復興に取り組もうと強く思いました。

土砂崩れの現場には、土砂に飲み込まれてしまった、小学校時代の友人の家がありました。私はとてもショックでしたが、その日、友人は私を見つけると、なんと笑顔で駆け寄ってきてくれたのです。

「お疲れ様。大変だね。」

と言いながら、私の手と長靴についた泥を水で流してくれました。私は、心が温かくなったのと同様に、もし自分が友人の立場なら、こんな風に笑顔でいられるのだろうか、そのようなことも考えました。彼の心の強さに感動すると共に、彼と友達で良かったなと心から思いました。

今も私は、復旧作業を続けています。被災された方々もボランティアの方々も、立場は違うけれど、目指すゴールは一緒なので、同じ気持ちで復興に取り組むことが大切だと強く思っています。

そして、私は将来、報道関係の仕事に就くという夢があります。仕事を通じて、加害者と被害者、あるいは、被災した人々とそうでない人々など、立場の違う人々の関係性を明確にしつつ、同じ人間として大切なものを多くの人々に伝えていきたいと思っています。

最後に、「させていただく」に込められたもの、それは、「思いやり」、「敬意」、そして、「謙虚さ」なのです。

みなさん、西日本豪雨災害をこれからの糧にするためにも、「させていただく」という言葉を心に置いて、本当に人と人が助け合える世の中を共に作っていきましょう。

## 国際ソロプチミスト広島会長賞



### 二つの国、それぞれの思い

三次市立塩町中学校

3年 <sup>おお</sup>大 <sup>おか</sup>岡 <sup>り</sup>莉 <sup>こ</sup>子

私は、父の仕事の関係で、これまでの人生の半分以上をアメリカで過ごしました。アメリカに行ったとき私は4歳で、まだ日本語も正しく話すことができていませんでした。だから、私が最初に覚えた言語は英語でした。

私が、アメリカの学校に通っていた時、平和教育を受けました。特に、パールハーバーについて詳しく学びました。パールハーバーとは、1941年12月8日、アメリカのハワイ州に、日本が奇襲攻撃をした出来事です。私はこの出来事をアメリカで学び、この攻撃をしたから戦争が始まったのに、なぜ日本はアメリカを攻撃したのか、たくさんの疑問や悩みがありました。

日本に帰国し、社会の授業で、日本が日米交渉の打ち切りの通告前にパールハーバーを攻撃したために、アメリカからだまし討ちとみなされたという歴史を知りました。

また、日本の小中学校で、広島、長崎の原爆投下について学びました。たった一発の原子爆弾により、広島では約20万人、長崎では約14万人の命が奪われました。戦後73年たった現在でも、約20万人近い被爆者の方がその後遺症に苦しめられています。

アメリカで私は、原爆投下は戦争を終わらせるためにしたことだと習いましたが、広島の平和資料館を見学したとき、展示物の悲惨さに心が痛くなりました。

私は、二つの国でそれぞれの平和教育を受け感じたことは、戦争とは、勝ち負けのない残酷で悲しみばかりの恐ろしい争いだということです。歴史上では、アメリカが戦争に勝ったと言われていますが、みなさんはアメリカは本当に戦争に勝ったと思いますか？私はそうは思いません。それは、どちらの国も、たくさんの人々の命が奪われたからです。私は、戦争のことについて学ぶ度に、心が押しつぶされそうになります。戦争で、家族や友達が目の前で殺される悲しみ、いつ自分が殺されるかわからない恐怖など、経験したことのない私には、想像することもできないほど、つらく苦しいことだと思えます。しかし、私にもわかることが一つだけあります。それは、「戦争とは、二度とあってはならないことであり、この世界に存在してはいけないことだ」ということです。

このような出来事は、それぞれの国の捉え方の違いによって起きたのだと思います。人は一人一人考え方や捉え方、その思いが違うように、国にも、それぞれの捉え方があるのだと思います。しかし、その違いによって多くの命が失われることは、許されないことではないでしょうか。

2年前、オバマ元大統領が広島を訪れ、被爆者の肩を抱いたとき、そして、安倍首相がパールハーバーを訪れ、被害者と語り合ったとき、私は母とテレビを見ながら、世界が平和に向けて動き出したという思いで胸がいっぱいになりました。

私も二つの国で、それぞれの苦しみや思いを知りました。私はこれからも、私にとって大切な二つの国、その二つの国の言語で、戦争の怖さ、平和の大切さ、本当に世界が平和になるためにお互いを理解し合うことが必要だと伝えていきたいと思えます。

I would like to use these two language to tell everyone the importance of world peace.

## 広島清流ライオンズクラブ会長賞



### 「仲良くしないで。」

広島市立国泰寺中学校

2年 <sup>やま</sup>山 <sup>した</sup>下 <sup>み</sup>美 <sup>う</sup>羽

私は、中1の時、大きなグループの中に入っていました。休憩時間はみんなで集まり、楽しく過ごしていました。しかし、1か月くらいたって、グループの中心の子が、ある女の子を嫌いはじめました。その女の子は小学校の時の友達でした。中心の子が「私、あの子嫌いなんだよね。みんな嫌いじゃない？」と言い、周りの子は戸惑いましたが、一人の子が「私も。」と言いました。すると、中心の子は私たちを見回し、私たちもそう言わないといけない雰囲気になり、私は最後に「うん。」とだけ答えました。かわいそうだと思いましたが、嫌われたくなくて返事をしてしまいました。中心の子は「よかった。」と言い、そこから嫌いな子をにらんだり、大げさに避けたり、悪口を言ったり、行動がエスカレートしていきました。

そしてある日の休憩時間、彼女は「みんなもうあの子と仲良くせんといて。」と言い私たちの行動まで制限しようとしてきたのです。私は彼女の怖さを知ってから、今さら「その子のこと嫌いじゃないよ。」「やめようよ。」とは言えず、もし今、彼女の言うことを否定したら、このグループにいられなくなる。そんな不安が頭に浮かび、私はぼそっと「いいよ。」と言いました。

それから、私たちはその子を無視しました。彼女はそれに気づき、怖がるようになりました。しかしある時、私が一人で席についていると、彼女が私の消しゴムを拾って「はい。」と笑顔で渡してくれました。私は手をのぼし、「ありがとう。」と言おうとした時、中心の子が横から「無視して。」と半笑いで言いました。私はゾッとしてどうしていいかわからず、彼女から目をそらし、消しゴムを奪うように取り、グループの中に入っていました。申し訳ない。ですがそういう思いもグループの中で見せられません。私は平気なふりをしていましたが、その子が気になり恐る恐るそちらを見ると、下を向いて固まっていた、とても怖がっていました。

中心の子は、他の子たちも無視しようと言い出しました。前まで仲の良かった子とも話せなくなり、今度は私たちが避けられるようになったのです。本当はこんなことしたくない。でも、結局自分のしていることは、誰かを傷つけているんだ。自分も悲しいけど、しょうがないと思いました。

この苦しさが何か月も続きましたが、それが終わる、ある出来事がありました。私の机の上に、あの子のものさしが置かれてありました。中心の子が私のものだと思って触っていると、たまたま壊れてしまいました。わざとやったと思われたくなくて、近くの棚に置いてしまいました。実はそれをあの子が見ていたのです。彼女は先生に相談してクラスの中でアンケートを取るようになりました。中心の子がすぐ私たちに「書かないで。」と言い、すごく悩みました。書かないといけない。でも、「仲間はずれにされたくない。」この気持ちに負け、私は何も書きませんでした。「私は本当に最低だ。」後悔でいっぱいになりました。

次の日、私はその子を見かけて勇気を出して「大丈夫？」と声をかけました。その子はすごく小さな声で泣きながら「大丈夫だよ。」と言いました。私はこれほどまでに傷つけた。私は何も言えませんでした。あの時止められていたら、彼女はこんなに傷つかなかった。自分を守るために彼女を傷つけてしまったけど、もうこれ以上傷つけない。

私は親しい友達にそのことを話し、2人でグループを抜けることにしました。グループの子とすれ違う時、少し気まずくなりましたが、前よりも気持ちが楽になりました。

もし、また同じように「あの子と仲良くしないで。」と言われても「うん。」とは絶対に言いません。あの時のように、弱くて何もできなかった自分から変わりたい。だからこそ、私は強く優しくありたいです。



## 今の私にできること

広島県立広島中学校

2年 <sup>み</sup> <sup>やけ</sup> <sup>ゆ</sup> <sup>い</sup>  
三 宅 結 衣

広島ではじめに強い雨が降り始めたのは7月6日金曜日の夜でした。電話がかかってきました。同じ学校に通う友達からです。

「そっち大丈夫？今、家の前の川が氾濫しそうで、物を2階に運んでるんだ。」

自分の住んでいる町がヤバい。時間が経つにつれて、そんな思いが強くなりました。

平成30年7月豪雨。私の家からわずかのところでも、土砂くずれが発生しました。なじみのあるバス通りが、川からあふれだした濁流で土砂にうもれました。

「家にいるよりなにか自分にできることがしたい。」

そんな思いで、私は、父とボランティア活動に参加しました。災害ごみを運んで分別したり、被災したお宅の清掃をしたりしました。玄関前のかべに飛び散った泥は、カチカチに乾き、水をかけてこすってもなかなかとれません。汗だくになって、動いているうちに、あっという間に半日が経ちました。

「ありがとうございます。本当に助かりました。」

清掃したお宅の方に丁寧にお礼を言われました。自分は良い事をした、人の役に立てた。満ち足りた気分になりました。

「ファーン。」

きれいになった家のすぐ近くを回送列車が通り過ぎていきました。明日からは、2週間ぶりに列車の運転が再開されることになっています。「町を元通りにしたい。」という私の思いが、かなったようにも感じました。

しかし、その気持ちは、軽トラックの荷台に乗せられて、ボランティアセンターまで戻っていく帰り道、みるみるしぼんでいきました。町のところどころに信じられないくらい大きな岩が転がっていました。道端には、たくさんの災害ごみが山積みになっていました。家に帰って、シャワーを浴び、クーラーの効いた部屋に戻って一息つくと、さっきまでの半日ははるか昔のここのように感じられました。「役に立ちたいと勢い込んでいったけれど、自分のしたことに意味はあったのか。」だんだんと「自分は無力だなあ。」という気持ちが大きくなっていきました。たった半日、ボランティアをただけなのに、頭がガンガンしてきました。疲れ切っているの間にか眠ってしまいました。

夕方になって、ようやく目が覚めましたが、いつまでたっても元気は出ません。そんな私を見て、父が声をかけてくれました。

「今の自分にできることをやったんだから、それで十分なんじゃない。」

そして、父は「朝がくると」という詩を教えてくださいました。この詩の後半は次のように書かれています。

『ぼくが作ったのでもない／靴を はくと／たったか たったか でかけていく／ぼくが作ったのでもない／道路を／ぼくが作ったのでもない／学校へと／ああ なんのために／今に おとなになったなら／ぼくだって ぼくだって／なにかを 作ることが／できるように なるために』

私の印象に残ったのは、最後の、

『今に おとなになったなら／ぼくだって ぼくだって／なにかを 作ることが／できるように なるために』

という部分です。今の私にできることは、家の壁をきれいにしたり、災害ごみを分別したりすることくらいしかありません。それでも父は「家にいるよりなにか自分にできることがしたい。」という私の気持ちを汲んで、ボランティアに連れて行ってくれたのだと思います。

先生、友達、家族…。私はたくさんの人に支えられて生活してきました。いつか私も私の身近にいる人を支えることができるように、今の私にできることに精一杯取り組んでいこうと思います。



## ふるさと「比和」のためにできること

庄原市立比和中学校

3年 <sup>なが</sup>永 <sup>た</sup>田 <sup>せ</sup>星 <sup>な</sup>那

「人生 100 年時代。都会で頑張ってきた皆さん！これから比和で暮らしませんか？豊かな自然、新鮮野菜。優しい人。まるごと家族。これが比和町です。幸せで豊かな老後が過ごせますよ。」

私の住む町「比和」は、昔は人が多かったのですが、都会に人が出ていわゆる「少子高齢化問題。過疎化の問題」を抱えた町です。このままだと、「比和」は暗くて元気のない町になってしまいます。だから私は「比和」のために何ができるのか考えました。

よく、「田舎には高齢者が多い。若者の働く場所がない。お店もない。だから過疎化が進むんだ」と聞きます。しかし、今必要なのは、「発想の転換」です。

私はまず、「比和」をアピールすればいいと思います。「都会で長年仕事を頑張ってきた方々に」です。「比和」はとても静かで、自然が豊かな良い町です。落ち着いて暮らせます。健康的でおいしい食べ物が豊富です。定年し、少しのんびり暮らしたいと思っておられる方は、都会にたくさんいらっしやると思います。そういう方は是非比和に来てください。排気ガスのにおいや車の騒音もなく、夜空の星や、比和川のせせらぎが聞こえる中で、「比和」のすばらしさを満喫し、暮らすことができれば、豊かな人生を送られるはずですよ。そして、「比和」に住んでくださった方々に、子どもや孫がいたら、「比和」に呼んでください。そうやって人を増やせばよいと思います。比和では自然と触れ合える行事がたくさんあり、自然についていろいろ知ることができます。川には様々な種類の魚がいるので、魚釣りをしたり、川遊びをしたりできます。学校もみんな仲良くいじめなんてありません。少人数指導で勉強もできるようになります。このような環境の中で、子育てできると「私みたいないい子に」なりますよ。

それはさておき、友達とも話し合いをしました。「比和」のためにできること。課題を。その時出たのが、「空き家」でした。クラスのグループで、空き家をどうするか考えました。自分の意見を付せんに書き、交流しました。

「空き家を、工夫してカフェにしたら？」

「地域のいろんな人がカフェでゆっくりできるよ。」

「カフェで出すメニューは一品に一種類以上の比和産のものを入れれば、『比和』をアピールできるんじゃないかな」

など、たくさん夢が膨らむ意見が出ました。こんな話を友達とするととても楽しかったです。空き家がカフェになったら、最初から立て直すより費用も安く、そこで働く人も必要になり、一石二鳥です。おいしい食材をつかった料理。これでまた、「比和」をアピールすることができると思います。

私は、「比和」の一番の魅力は、なんとといっても「人の優しさ」だと思います。比和に住めば、その魅力が一番に伝わってくると思います。「都会で、頑張ってきた皆さん！これから比和で暮らしませんか？豊かな自然、新鮮野菜。優しい人。まるごと家族。これが比和町です。幸せで豊かな老後が過ごせますよ。」

## 優 秀 賞

---



### 心の叫び

広島市立井口中学校

3年 <sup>おか</sup> <sup>だ</sup> <sup>り</sup> <sup>さ</sup>  
岡 田 莉 紗

「誰も信じてくれないんだ。」彼はただ一言、私に訴えてきました。彼の真っ青な顔は、涙でずぶ濡れでした。

私には、一人の親友がいます。幼馴染みで笑顔あふれる蓮という男の子です。私は、彼の家族に優しくしてもらっていて、よく家で遊んでいました。彼とはまるで兄弟のようで、人と話すことが苦手な私にとって、蓮は掛替えのない存在でした。それは、中学生になっても変わりませんでした。

中学2年生になった蓮に変化が訪れました。2月末から少しずつ体調を崩しはじめて、3年生になってからは、欠席と早退を繰り返すようになり、ついに、ほとんど学校に行けなくなりました。蓮は学校へ行こうと努力をしました。しかし、それは叶いませんでした。彼は、心の病気だったのです。蓮は、朝に起きることができません。彼の母親は、彼を起こそうと体を揺さぶっても、全く力が入らず、まるで死体のように動かないと言っていました。

ある時、私はいつものように彼の配布物を届けに行きました。そして、彼の母親と話しをする中で、「病院に行っても異常がないのよ。でも、自分の好きなこと、楽しいことだけやって、やりたくないことはやらないの。傍から見たら、ずるいようにしか見えないよね。」私は怒りで爆発しそうになりました。「違うんだ。本当に苦しんでいるんだ。蓮は、もがいているんだ。」そう叫びたかった。「莉紗ちゃんは偉いね。生徒会長としての仕事も、勉強も頑張っていて。本当に良い子だよ。きっと、これからの人生で報われることがたくさんあると思うよ。」しかし、私には響きませんでした。ほめ言葉のはずだけど、その言葉一つ一つは、彼を否定しているのと同じことなのです。蓮にかけてあげる言葉はないか。助ける方法はないのか。今すぐ助けてあげたい。でも、何もすることができず、ただ苦しむ彼を見ていることしかできませんでした。

ある日、蓮が私の家に来て突然、目の前で泣き崩れました。母親と喧嘩になったそうです。その時母親は「あんたはぜったい病気なんかじゃない。根性の問題だ！」と彼に怒鳴ったそうです。彼はショックを受けました。「親でさえ、本心では僕のことを心配していない。誰も僕のことを信じてくれないんだ。」彼の泣き声はまるで、動物の呻き声のようで、悲しい叫びでした。心の寄り所がなくなった彼は、少しでも楽になろうと、壁に頭を打ちつけたり、自分の体を傷つけていたそうです。それでも耐えられず、助けを求めるかのように私に本心を打ち明けてくれました。私はただただ「大丈夫だよ。私がいるよ。私は味方だよ。」と背中をさすることしかできませんでした。生徒会長である私は今まで、学校からいじめをなくそうと考えていました。生徒が楽しく学校生活がおくられるようにと。しかし、私は目の前でくるしんでいる親友さえ救うことができない。私は何もできない自分を責めました。そんな時、蓮は私に言いました。「莉紗と2人で遊んでいるときが一番幸せなんだ。ずっとこの時間が過ぎなければいいのにな。莉紗、ありがとう。」この言葉は、絶望した私の心に光を与えてくれました。そう、私は小さくとも、彼の心の支えになることができていたのです。久しぶりに、彼の笑顔を見られて、うれしくて、涙がこぼれそうになりました。

その日から、私は心に誓ったことがあります。それは、生徒会長として、苦しんでいる人の心を理解することです。たとえそれがどんなに小さなことでも、苦しんでいる人の心に寄りそうことに価値があると思うからです。人を救う行動は、どんなに小さなことでも無駄ではない。私はそう信じています。

もし、あなたの目の前に、苦しんでいる人がいたとき、そっと、手を差しのべてください。それが、どんなに小さなことでも。



## 食べられることのありがたさ

庄原市立口和中学校

3年 いし だ こう すけ  
石 田 浩 祐

それは、私が小学校4年生の時のことです。学校で配られた1枚のプリントに目がとまりました。毎月配られている「保健だより」です。このときの内容は、「いただきます」と「ごちそうさまでした」の意味について書かれていました。

みなさんはこの二つの言葉の意味をご存じですか。「いただきます」は牛・豚・鳥などの命をいただくということで、その命に感謝するために。そして、私たちが食べ物を口にするまでにはたくさんの人が関わっています。そのすべての人に感謝するために「ごちそうさまでした」という言葉があるのです。普段、何気なく使っていた二つの言葉に、こんなにも大きな意味があったなんて。食べることが大好きな私にとって、新たな発見となったこのときのことは、今でもよく覚えています。

私の住んでいる口和町では牛を飼育している家庭が多く、身近なところに、牛がたくさんいます。触れ合う機会も何度かあり、いつもかわいいなと思って見ていました。しかし、「いただきます」の意味を知ってからは、考え方が変わりました。

私は焼き肉が大好きなので、母によく「焼き肉が食べたい。」とお願いしています。

「やったあ、今日は焼き肉だ。いただきます。」

それまでの私は、大好きな焼き肉が食べられるという嬉しさだけを「いただきます」に表現していました。普段見ていたかわいい牛と、自分が食べようとしている牛肉が結びついていなかったのです。私たちが生きていくために、一頭の大切な命をいただく。これほど、ありがたいことはありません。大切に大切にいただかなくてはならないと実感しました。

また、私の家では毎年お米を作っています。私も小さい頃から田植えなどを手伝っていましたが、自分から進んで手伝うことはありませんでした。なぜなら、田植えの作業は一つ一つがとても大変で、できればやりたくなかったからです。いつも家族に言われて、しぶしぶ手伝っていました。とは言っても、私が手伝うことはごく一部で、祖父や父は手のかかる作業を進めていました。苦労や弱音を口に出すこともなく、ただ一心に働いています。こんなにつらい作業をしてまで、米作りをする必要があるのかなあと、疑問に感じたこともありました。

しかし、「ごちそうさまでした」の意味を知ってからは、米作りに取り組む意味が分かったような気がしました。祖父や父が苦労して作ったお米が、自分の家庭はもちろん、たくさんの家庭に届き、おいしく食べられていると思うと、少し誇らしい気持ちになりました。今までやりたくないと思っていた作業も、乗り越えていける気持ちになりました。そして、このようにして食べ物を作っている人はかっこいいなと思うようになりました。

「いただきます」「ごちそうさまでした」

この二つの言葉は私の物の見方を変え、さらには広げてくれました。私たちは毎日3食、食事をしています。1食にどれほどの命とたくさんの人の努力が詰まっていることでしょうか。それを考えると、食べられることのありがたさを感じます。二つの言葉の意味を知ってから、私は食事を残さず、大切に食べるようにしています。そして、食に関わるすべての命や人々に、心を込めて言っています。

「いただきます」「ごちそうさまでした」



## 挑戦から生まれた挑戦

三次市立布野中学校

3年 お だ かず き  
小 田 和 生

「挑戦。」

この言葉が苦手だった僕には、夢がありませんでした。

そんな僕に、転機が訪れました。小学校5年生の時です。

陸上大会で走る兄を見て、自分もあんな風に走りたいと思い、自力で練習を始めました。すると、いつの間にか、学校で一番足が速くなっていたのです。僕は、この時初めて、挑戦することの喜びを知りました。

このままもっと努力して、中学生になったら陸上部に入ろう。

しかし、そう思ったのは束の間でした。

いつも通り練習していると、左足に痛みを感じました。大したことではないだろうと思っていたのに、近くの整形外科で大きな病院を紹介されました。そこで、医師からこう告げられたのです。

「もう走ることは、やめないといけない。」

僕は平然を装って、わがままを言ったりしませんでした。

しかし、心からは光が消えました。

僕は、幼い頃、「ペルテス病」という、一生治ることのない、骨が変形する病気にかかっていたことを、その時初めて知りました。その後遺症が、左足に現れ出したのです。

事情を知らない人からは、「あれ、今日は走らんのか?」「あんなに好きだったのに…」と言われます。いくら説明しても「いつ治るん?」と素っ気なく言われました。

治らないのに。

僕は、そのことに囚われて、抜け出せなくなりました。

どうせ、俺は何をやっても報われない。そう思っていました。

そんな僕に、考え方を変えるきっかけができました。それは、母から聞いた、祖父の言葉です。

「じいちゃんね、亡くなる前に、こう言っとったんよ。『和生は、走れないのが苦痛になっていると思うから、好きなことをたくさんやらせてくれ、頼む。』」

僕は驚きました。走れないこと、周りからの視線、様々なことで不安になっていた自分。そんな僕の気持ちを誰にも言ったことがなかったのに、祖父は理解してくれていたのです。

祖父のことを考えているうちに、祖父の人生が思い浮かびました。

じいちゃんは何があってもあきらめず挑戦する人だったな。俺もじいちゃんのようにになりたい。小学生の時の、あの前向きな気持ちがよみがえりました。

走ることができなくなっただけで、他のことならできるかもしれない。

僕は初めて、一つのことには囚われない自分を作ることができました。

その日から、僕は様々な視点で物事を見ました。走ることだけが陸上ではない。砲丸投げもあるではないか。そう思い、中学3年生ながらも陸上部に入部しました。

小学生の時のように大成功はしませんでした。しかし、できることに対する感謝の気持ちが大きかったので、今も続けることができています。

「挑戦」は、僕を孤独や思い込みから解放し、世界を広げてくれました。

みなさん、もし、今悩んでいることや、立ち直れないことがあれば、想像してみてください。世の中はとても広く、色々な物事があり、環境があり、人がいます。

「挑戦」は、必ずしも良い結果を生むとは限りません。

しかし、「挑戦」の先には、新たな世界を拓く、次の「挑戦」が必ずある。

僕はそう思っています。

## 優 秀 賞

---



### 私たちから…

竹原市立賀茂川中学校

3年 <sup>あり</sup> <sup>た</sup> <sup>み</sup> <sup>さき</sup>  
有 田 美 妃

1, 2, 3, 4, 5…。この約5秒の間に世界では1人の幼い命が失われています。1日, 1万8,000人。2012年, 1年間に5歳未満で死亡した子供は推定約660万人。この死因の約半数は, 栄養不良が関係しています。

さて, みなさん, 自分の日常を振り返ってください。給食で自分が好きではない献立の時「これマズそうじゃない」「これマジ食べれんわ…」と, 当たり前に出される昼食に文句を言い, 何のためらいもなく残したことが一度はあるはず。そういう, 私も給食を残すことに抵抗すら感じていませんでした。そんな私の考えを少しずつ変化させてくれたもの。それは, 国境なき医師団の活動でした。

この医師団の映像を見た時, 私が最も衝撃を受けたのは「命の腕輪」でした。これは, 子供の腕の周囲を測り, 栄養状態を調べるものです。命の腕輪で測ったある子供の腕の太さは, たったこれだけ。そうです, ペットボトルのキャップぐらいしかなかったのです。皆さん, 目を閉じて想像してください。自分の腕がペットボトルのキャップと同じ太さだったら…。足の太さは? 体重は? 私は, 命の腕輪によって, どのような状態で幼い命が失われているのか, 数字よりもリアルに感じました。そして, 改めて思ったのです。「今, 自分達が毎日3食, 食事を食べられることは当たり前ではない。」ありがたいと思い食べる。そんな小さな事が, 本当に大切なんだなぁと実感したのです。そして, あのような厳しい現状が世界からなくなしてほしいと心から思うようになりました。

そのために何が必要なのか。どうすれば世界は変わるのか…。

私たち中学生の力で世界が変わるほど簡単なことではないことは分かっています。しかし, 何もしなければ何も変わらない。何かを始めることで, 現状が変化していく可能性がある, と私は考えました。

そして, 出た結論は, まずこの現状を皆知ることが必要だと思いました。私達が住んでいる同じ地球上には, これぐらいの腕の太さの子供がいるということ。この現状を知ること, 私のように小さな気持ちの変化が起こる人がいるはず。その気持ちの変化の輪が1人, 2人, 3人と増えていき, いつしか世界に広まることで, 世界は少しずつ少しずつ変わっていくと思うのです。もちろん, 意識の変化だけでは何も変わりません。

そこで私は, 募金活動を実行していきたいと考えています。みなさんが, ジュースを買うお金で栄養不良の子供を救うための栄養治療食2袋が買えます。仮に60人が, ジュースを買うお金を募金したら, 重度の栄養不良の子供を1人救うことができるのです。私達のほんの少しずつの分かち合いで救える命がたくさんあるのです。

現状を理解し, 行動に移していきませんか。いつの日か, この地球上の全ての子供たちが健康で, 未来に向かって進むことができるようになる日がくることを私は心から願っています。

**審査委員長**

東京教育研究所主任研究員・広島教育実践研究所所長

**山本 名嘉子**

皆さん、こんにちは。朝早くから大変すばらしい発表を聴かせていただいて、ありがとうございました。今年は3,595名の応募があったと伺っています。その原稿審査をくぐり抜けて、今日は22名の方が発表してくださいました。

今日まで、発表者の皆さんはもちろんのこと、ご家族の方も先生方も大変心を配って努力をなさってきたと思います。今日は本当にすばらしい発表でございました。

いくつかの気付きを申し述べさせていただきます。この「少年の主張」の発表会は、中学生の身近な生活や体験の中からつかみ取った、あるいは生み出した考えや意見を発表する場でございます。今日はしっかりと、そして明るく、とてもいい発表ができたように思います。

審査の基準はもう既に発表になっているので、それを参考になさってもう一度考えてください。審査の基準は大きくは二つあり、一つは内容です。何を伝えようとしているか。もう一つはどのように伝えようとしているかです。話し言葉ですから、話すことによって伝えようとしている、そのことが審査のポイントになります。

今日の皆さんの発表の中には、身近なことの体験と感想、思ったことを基に掘り下げて自分の意見を作り出した方がほとんどでした。それをこれからの実践に生かしている、そういう流れの発表が多かったように思います。自分が見つけた考えや意見、それをこれからの自分の生き方の中に生かしていくということです。

いくつか印象に残った発表の方を申し上げますが、これが全てではありません。順不同ですが、例えば、20番の石田さん（庄原市立口和中学校）は、「いただきます」とか「ごちそうさま」といった言葉、それらから我々が生きていく命をいただいているということに思いをはせた発表でした。12番の大森さん（東広島市立八本松中学校）は、手話は言葉である、しかも、それは体全体を使った表現の言葉であるというふうに私は伺いました。とてもいい発表だったと思います。それから23番の小田さん（三次市立布野中学校）は、「挑戦から新しい発見がある」という、とても力強く、自分の問題といいますか、病気のことなどをずいぶんしっかりと乗り越えて、力強く新しい道を切り開いていましたね。それから、24番の有田さん（竹原市立賀茂川中学校）は、具体的なイメージを伴ったお話で、人のために何ができるかということを私たちに伝えてくれたと思います。募金をしようということもこれからの課題になるかと思います。

多くの発表が、こうした自分の生活を見つめ、自分の体験を見つめて、考えたことを生かして実践していこうとしている。ほとんどの方がそうであったと思います。ただ、それを今日は人に伝えなければならない。そこに「論」の進め方の工夫のようなものがあると思います。エピソードを取

り上げて、具体的にいろいろな事柄が述べられていきますが、その事柄があまりにも大きくなりすぎて、いったい何を伝えたかったのかの印象が少し薄くなっていくような場合もありました。論旨は、言いたいことが十分に伝わるように、具体的な事例を生かしていくということが必要であると思います。

もう一つの視点は表現の仕方です。この発表の場は、人に自分の思いを伝える、感動を呼び起こすという難しい働きを持ったスピーチの場です。したがって、心に伝わるような話し方というものが非常に大切になってきます。そのためには、言葉ひとつひとつが持っている意味をしっかりとらえて、そしてそこに思いを乗せて発していく、自分の思いを伝えていく、このように言葉を発することが大事になります。心を込めて話すということになるかと思いますが、大きな声で言えばいいわけではありません。今回の発表では、静かに穏やかに話しながら、じゅんじゅんと人に伝わってくるような発表が多かったと思います。

それには言葉の選び方の問題もあります。あまり過激な言葉はかえって人の心を打ちません。また伝わるために大切なのは、言葉と言葉の「間」です。「間」は、相手がどのように聞いているか相手の反応を見ながら話すというところから、自然に生まれてくるものだと思います。

分かりやすく伝えていく、それは具体的に伝えるということになるかと思いますが、言葉はとても大切なものですから、日頃も自分の言葉がどのように伝わっているのかということを感じとりながら話すようにしたいと思います。人と人の心をつなぐ言葉であります。

どう言ってもいいのではありません。ほんの一言が相手を傷つけることももちろんあります。したがって、言葉に関心を持って、言葉を大事にして日常生活を送っていくことが大事だと思います。

今日は言葉についての発表もありました。例えば、5番の奥さん（広島城北中学校）の発表です。奥さんは素読を勉強しています。昔は、漢文の素読ということがありました。「素読の会」を通して、自分たちの生活の中の語彙が不足しているということをお話されました。語彙の不足は言葉の不足だけではなくて、もっと大きく言えば文化の問題でもあるというふうに奥さんは述べていました。また、6番の斉藤さん（三次市立八次中学校）は、声を掛けることの大切さを話してくれました。17番の堀内さん（坂町立坂中学校）は、「ありがとう」の意味の大切さを述べ、身近な人の間ではとかくわかっているつもりになってしまうのだけれど、言葉にして「ありがとう」を言うことの大切さを、たとえばお母さんに伝えるなどの、大切さを話されました。そういうことはとても大事なことで共感しました。さまざまに言葉の問題を取り上げてくださった方が多かったことはとても嬉しかったことです。

言葉は本当に「生きる力」ですね。言葉が豊かであるということは、考えることが豊かになる、理解することが確かになる、そして感じることも豊かになる、人に伝えることも豊かになります。言葉の力は、本当に「生きる力」だというふうに思います。どうぞ言葉に関心を持って、自分の言葉がどんなふうに人に伝わっているか、どんなふうに人の言葉を大事に受けとめているかということとを、今一度考え直してみたいと思います。

今日は、1・2年生の方も発表してくださいました。1年生の方は、これから伸びていくという感じがしました。日常の体験も自分の思ったことも、掘り下げていくことに努めて大きく伸びてください。そのためには、日常のさまざまなことについてもよく考え自分の考えを持つこと、そして読書をする、進んで人と話すことを心掛けて、再度またこの会にチャレンジしてください。3年生にはとても頼もしい、力強いものを感じました。このような若者がこのあと育っていけば、日本の未来も明るいと、今日は安心いたしました。本当に長時間の素晴らしい発表をありがとうございました。

# 「少年の主張」・中学生話し方大会 2018

## 第 40 回「少年の主張」広島県大会開催要領 第 52 回中学生話し方広島大会開催要領

- 1 趣 旨 国際化，情報化が急速に進み，環境が目まぐるしく変化する現代社会において，次代を担う 子供たちには，論理的に物事を考える力，自分の主張を正しく伝える力，広い視野と柔軟な発想や創造性などを身につけることが求められている。  
この大会は，中学生が話すことによって伝える力を育み，学び合う機会となるとともに，意見発表を通して，中学生への理解と認識を深めてもらうことをねらいとする。
- 2 対 象 広島県内の中学生
- 3 主 催 公益社団法人青少年育成広島県民会議，広島県中学校話し方連盟  
独立行政法人国立青少年教育振興機構
- 4 協 賛 国際ソロプチミスト広島，広島清流ライオンズクラブ，  
公益財団法人広島青少年文化センター
- 5 後 援 広島県，広島県教育委員会，広島市，広島市教育委員会，広島県公立中学校長会，  
広島県私立中学高等学校協会校長会，中国新聞社，NHK 広島放送局，中国放送，  
広島テレビ放送，広島ホームテレビ，テレビ新広島
- 6 開催日時 平成30年9月8日（土） 9：30～15：30
- 7 日 程 9：00～9：30 受付  
9：30～9：45 開会行事  
9：45～12：00 発表「午前の部」  
12：00～13：00 出場者記念撮影，昼食  
13：00～14：00 発表「午後の部」  
14：00～14：30 アトラクション  
14：30～15：30 審査発表，表彰，閉会行事
- 8 開催場所 エソール広島  
(広島市中区富士見町1 1-6)
- 9 発表内容 次のA,B,Cの中から，日ごろ心に思っていること，考えたことや感銘を受けたことなどを，自由でユニークな発想と，飾り気のない言葉でまとめたもの。  
なお，未発表，自作のものに限ります。  
また，商業的な固有名詞の使用は極力避けるようにしてください。  
A 社会や世界に向けての意見，未来への希望や提案など。  
B 家庭，学校生活，社会（地域活動）または，身の回りや友だちとの関わりなど。  
C テレビや新聞などで報道されている社会の様々な出来事に対する意見や感想，提言など。

- 10 発 表 小道具は、使用しない。  
**発表時間は5分程度**（目安として400字詰め原稿用紙4枚程度）  
ただし、6分を超えるものは審査対象外となりますので、ご注意ください。
- 11 応募方法 申込書に原稿を添えて、中学校長を經由して提出する(原稿は返却しない)。  
ただし、市町、青少年育成市町民会議等の類似の大会で入賞した中学生の応募も可とする。  
この場合、市町等においてその旨を付記して、市町等から提出するものとする。  
原稿は原則**400字詰原稿用紙（A4判縦書き）**を使用すること。（学校等で使用される B4判縦書きも可とする。）
- 12 申込締切 **平成30年8月3日（金）必着**
- 13 事前選考 提出された原稿を主催者において審査し、大会出場者を決定する。なお、大会の出場資格を得た者については、各中学校長等あてに8月中旬に通知する。
- 14 審 査 審査は、学識経験者、マスコミ関係者、関係行政機関の職員、(公社)青少年育成広島県民会議及び広島県中学校話し方連盟並びに協賛団体の代表者によって構成する審査会で行う。
- 15 表 彰 広島県知事賞、(公社)青少年育成広島県民会議会長賞、広島県中学校話し方連盟会長賞、国際ソロプチミスト広島会長賞、広島清流ライオンズクラブ会長賞（各1名）、優秀賞（6名程度）及び優良賞を選考し賞状を贈る。
- 16 副 賞 この大会で、広島県知事賞、(公社)青少年育成広島県民会議会長賞、広島県中学校話し方連盟会長賞、国際ソロプチミスト広島会長賞、広島清流ライオンズクラブ会長賞を受賞した5名には、副賞（約1週間の海外研修）が(公財)広島青少年文化センターから授与される。  
時 期：平成31年夏休み期間（予定）  
訪問先：大韓民国（春川，ソウル）（予定）
- 17 そ の 他 この大会で、広島県知事賞を受賞した者を、独立行政法人国立青少年教育振興機構主催の「少年の主張」全国大会（11月11日(日)東京で開催）への出場候補者として推薦する。
- 18 問い合わせ先 公益社団法人青少年育成広島県民会議「少年の主張」係  
申込み先 〒730-8511 広島市中区基町10-52（広島県環境県民局県民活動課内）  
電話 082-513-2742  
ファクス 082-511-2173

# 審査員及び審査基準

## 1 審査員

審査員長	山本名嘉子	東京教育研究所主任研究員・広島教育実践研究所所長
審査員	江種則貴	公益社団法人青少年育成広島県民会議副会長
//	川中文子	国際ソロプチミスト広島会長
//	清川徹	元NHKアナウンサー
//	黒小大介	広島県教育委員会義務教育指導課指導主事
//	田原直樹	中国新聞社論説委員
//	樽谷和子	公益財団法人広島青少年文化センター センター長
//	平勝憲	広島清流ライオンズクラブ会長
//	宮尾茂	広島県環境県民局県民活動課長
//	村本淳一	広島県中学校話し方連盟顧問
//	与座淳	広島市教育委員会指導第二課指導主事

(50音順, 敬称略)

## 2 審査の基準

概ね次の点を採点ポイントとし、内容、論旨、表現、態度等総合的に評価を行う。

- ① 鋭い感性で、新鮮な主張であるか。  
(柔軟な発想に基づく意見や提言、未来への希望や夢・メッセージ、新しい情報や視点など)
- ② 具体的な内容とともに、一般性・社会性の広がりがあるか。
- ③ 提案や提言を実現・実践する意欲や積極性が感じられるか。
- ④ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。
- ⑤ 発表に熱意が感じられ、迫力があるか。
- ⑥ 主張の内容が感銘と共感を与えているか。
- ⑦ 説得力のある話し方であるか。
- ⑧ 発表の早さや間のおき方、姿勢が適当であるか。

## 人生を駆け抜ける

山形県天童市立第三中学校

3年 <sup>いわ</sup>岩 <sup>ぶち</sup>淵 <sup>あや</sup>礼 <sup>め</sup>姫

「死にたい」、私はつぶやいた。期待に胸をふくらませていた中学校生活。しかし、そこにまっていたのは卑劣ないじめだった。指をさされ笑われた。トイレのドアをたたかれ罵声をあびせられた。すれ違うたびに馬鹿にされた。毎日苦しかった。悔しかった。もう死ぬしか逃げ場所がなかった。

そんな限界まで追い込まれた私は、ある日の朝爆発した。声が枯れるくらい泣きじゃくり、母に全てを打ち明けた。母は私の話を受け入れ、強く抱きしめてくれた。久しぶりに触れた人のぬくもりに、涙が止まらなかった。

その後、私はたくさんの人に助けられた。いじめをした人に直接注意してくれたクラスメイト、私のことを一番に考え、守ってくれた両親、陰ながら支えてくださった保護者の方々、相談に乗っていただいたり見守ってくれたりした先生方。その人たちのおかげで、「私は独りじゃない、心を閉ざさず自分を表現していいんだ。」ということに気づかされた。そして、私は一歩前に踏み出すことができた。本当に感謝してもしきれない。

いじめを受けていた頃は、人に心を開けず、友達なんか一人もいなかった。でも、3年生になった今では、心を開けるようになり、親友と呼べるまでの大切な友達もできた。自分の存在が疎ましく、毎日通うのが苦痛だった学校も、今では、安心できる居場所となった。

学校が楽しくて仕方がない。私は今、とても幸せだ。

いじめの経験は私を成長させてくれた。自分が変わるためには誰かからの助けを待つだけではなく、自ら一歩を踏み出さなければならないこと、自分を偽らず正直に表現すること、そして、一番大切なことは私自身が周りの人を思いやること。私はいじめの経験から大切なことを学ぶことができた。

いじめをする理由は様々あると思う。「社交的じゃない」「容姿がみんなと違う」「一部分がみんなより劣っている」。でも、それは当たり前のことではないのだろうか。

金子みすゞさんの詩に、「みんな違ってみんないい」という言葉がある。それぞれが別々で、でもそれに優劣はなく、すばらしいのだ、という意味である。みんなが同じ顔、同じ容姿、同じ性格では社会は成り立たない。だからこそ、互いを認め合いながら生きていかなければならない。それぞれに個性があるから社会が成り立っているのだ。

私は、いじめを見ている人、いじめをしている人、いじめをされている人、それぞれに伝えたいことがある。まず、いじめを見ている人。今、少しでも助けたいという気持ちがあるなら、勇気を出して、いじめられている人に声をかけてあげてほしい。いじめられている人は「私の味方は誰もいない」という孤独感でいっぱいだと思う。声をかけてあげるだけでも心が楽になるはずだから。そして、決していじめる側の人間にならないでほしい。

次に、いじめをしている人。いじめは立派な犯罪だ。それでも、まだ、あなたは人を傷つけますか。自分のやっていることが人として本当に正しいかどうか、考え直してほしい。あなたのその一言が、あなたのその行動が、相手の命を奪うかもしれないということに気づいてほしい。

最後にいじめをされている人。今苦しくて悔しくて、もうこんな人生捨ててしまいたい、そう思っているかもしれない。私もそうだった。でも、死んで何になる。あなたが死んでしまったら、どれだけたくさんの人が悲しむか考えてほしい。あなたのたった一つの尊い命を捨てないでほしい。

「生きていて良かった」そう思える日が必ずくるから、全力で生きて。逃げていいんだよ。人生は自分の努力次第でどうにでもなるから、今は自分の命を大切にしてほしい。

私も、この経験から学んだことを活かし、たくさんの人に支えられ、助けられた自分のたった一つの命を大切に、自分は自分らしく幸せになるために、しっかりと私の人生を駆け抜けていきます。





# 「家庭の日」に関する作文・図画

特選

## お母さんの四つのたから物

東広島市立三ツ城小学校

4年 ありみつ さくら 愛

私の家にはいろいろなルールがあります。そのルールのいくつかは、キッチンのかべにはられていて、いつでも見えるようになっています。その中で私が好きなルールは「家族を大切にする」というルールです。私のお母さんが作ったルールですが、私は守らないことが多く、よくおこられます。

私には、姉・妹・弟がいて、家の中は、パーティーのように毎日にぎやかです。そんなある日、事けんが起きました。私が朝ごはんにはチョコレートパンを食べようとしていた時、妹が近づいてきてこう言いました。

「そのパン、私も食べたい！」

しかし、そのパンは一つしかなく、しかも、私が大好きなパンだったので、妹にはゆずりたくない気持ちでいっぱいでした。

「あげない！」

少しいじわるなことをやってみました。すると妹が泣き出し、それに気づいたお母さんがやってきてしまいました。

「半分こしたらどう？」

と言われ、残るんだけど半分こすることにしました。

『妹には小さい方をあげたらいいよね。』

そう思い、半分にちぎった小さい方のパンを妹にわたしましたが、妹はなかなかお礼を言ってくれません。そのことをお母さんに伝えると、こう言われました。

「半分こした人が小さい方を取りなさい。」

またルールが一つふえました。一つしかない物をきょうだいで分ける時は、分けた人がせき任を取って小さい方を取り、大きい方を相手にあげるという決まりです。このルールができた日から、半分こする時は、みんな真けんです。なぜなら、自分の物が小さくなるのはいやだからです。周りのみんなもどっちが大きいか、小さいか、じっと見えています。でもこのルールのおかげで食べ物のけんかが少なくなりました。

5才の弟はまだ一人ではできないことがあり、こまって泣くことがあります。きのうは、

「色えんぴつをけずってほしい。」

とぐずぐず言っていました。そんな時にはまたべつのルールがあります。「すぐ下の子の面どうを見る」というルールです。弟がこまっていたら、すぐ上の私の妹がまず助けに行きます。それでもむ理なら、私の出番です。自分たちで助け合うことで、お母さんは用事がへり、すごく楽になっているそうです。

私の家のルールは私たち4人のきょうだいがなかよくすごせるためにあります。自分の意見ばかりを相手に伝えるのではなく、相手の気持ちを考えて行動することが必要です。こまっているきょうだいを助け、みんなにたよってもらえる人間に私はなりたいです。これから先、お母さんの四つのたから物がきょう力し合って、もっともっとえ顔があふれる家庭にしていきたいです。

## 特選

# お母さん

三原市立久井中学校

2年 まえ前

さくら 咲玖良

私はお母さんが大好きです。私のぐちや相談をまるで自分のことのように聞いてくれて、おこると誰よりもこわくて、一緒に話していると誰よりも楽しい私にとって世界一のお母さんです。でも、私は、お母さんが一番苦しいときに支えてあげることができませんでした。

3年前のある日、私のお父さんがいきなり調子が悪くなって、病院に行って検査を受けました。お父さんはある病気にかかって入院もしないといけなくなりました。私はそれを一緒に病院に行っていたお母さんから聞きました。それを聞いたとき、びっくりしましたが、なぜか何も深く考えることなくわかったと言えました。

しかし、お父さんの病態は日に日に悪くなっていき、お母さんが仕事を休んでまでも毎日病院に行くことが多くなりました。私はそのときバレーのチームに入っていました。だから、試合や練習試合もあったので、

「ごめん、さくら。今日も母さんいけれんけど、がんばってね。」

と、お母さんから言われる日もありました。分かっているけど、やっぱり見に来てほしい気持ちが強くて、

「ちょっと位、私のバレーも見に来てや！」

と強く当たってしまうときもありました。その言葉がお母さんを苦しめてしまったなと今ではすごく反省しています。それは、仕事もして、病院に通って、家事もして、塾やスポーツクラブの送迎までしてくれているすごく大変なお母さんにさらに無理させるようなことをしてしまったからです。今では、あの言葉は笑い話ですが、本当に自分は最低だなと毎回思います。今では、お父さんも元気になって家族7人で協力して楽しい日々を送っています。

どんなに自分が大変でも「子どもたちが元気なら母さんは幸せよ」といつも言っていました。そうやっていつも自分は後まわしのお母さんに私はあまり「ありがとう」と素直に感謝を伝えることができませんでした。そこで、私が6年生のときの卒業作文でお母さんへの感謝の気持ちを書きました。その作文をお母さんに見せると、お母さんは泣いて喜んでくれました。私もお母さんにつられて一緒に泣いてしまいました。そのとき初めて「母さんの子どもで本当に良かった」と思いました。

お父さんの病気のときは姉の高校受験と重なっていて、お母さんもお姉ちゃんもすごく大変だったと思います。私は時々お母さんに聞きます。

「なんであの時あんながんばれたん？」

お母さんは、

「子どもらが支えてくれたけえよ。」

と言ってくれました。私は何もしてないとそのときすごく思いましたが、お母さんにとっては私たち3人兄妹の学校での話や勉強をがんばっている姿、好きな事を全力で楽しむ姿が心の支えになっていたそうです。私はそれを聞いてとても胸が苦しくなりました。

どんなことも全力でやり切るお母さんは私にとって、家族にとってヒーローです。私はこれ以上お母さんに無理をしてほしくないです。だから、私にできることは何でもしようと思います。こうやって当たり前のように、ご飯が食べれて、勉強ができて、好きなことができる幸せは、お母さんが作ってくれたんだと強く感じます。こんな幸せを与えてくれたお母さんには感謝しきれません。これからたくさん迷惑をかけて、お母さんをたくさん困らせることがあると思いますが、お母さんにはずっと笑顔でいてほしいです。私ももう中学2年生だし、もっとたよってほしいなと思います。だから、これからはお母さんみたいにどんなことでも全力でやり切って、人の役に立てるような、尊敬してもらえるような人になりたいです。お母さん、これからもよろしくお願ひします。

「ねえ、私の足なんか変じゃない？むくんでない？」

と姉が言いました。家族が姉の周りに集まって困った顔をしています。目線の先には、はれ上がったようにむくんだ足があり、小学6年生だった私は訳も分からず、ただ呆然とその光景を目にしています。

姉は、すぐ病院に行き、診察を受けたところ「ネフローゼ症候群」という腎臓の病気であったことが判明しました。そして言われたのは、「約2か月半の入院」です。私の頭の中は、「どうしてお姉ちゃんなの？」という言葉でいっぱいでした。突然すぎる姉の居ない生活に大きな不安をかかえ、私は眠れない夜を過ごしました。

そして、次の日からスタートした姉の入院生活は思った以上に過酷でした。病院で出るご飯以外のものを食べることは禁止で、部屋から出てもだめ、というあたり前がそうではなくなる、といったものです。そんな苦しい中でも、姉はお見舞いに来た私を見ると、必ず笑顔で弱音など一切吐きませんでした。だから私も「できる事をしたい」と思い、姉にフォトフレームを飾り付けてプレゼントしました。徹夜をして作ったプレゼントを見て、姉は今まで見たことないほどの喜んだ表情を見せ、何度も「ありがとう」をくり返しました。

丁度その頃、今度は父の体調が悪くなっていました。夜中に救急車で運ばれ、ついに父も入院することになったのです。思ってもいなかった母と2人の生活に私の心は沈んでしまいました。そんな私を見て母は、

「悲しいのは皆一緒。その悲しみを吹き飛ばすのが家族じゃない？」

と言いました。その瞬間、姉が私からのプレゼントを幸せそうに持っている姿が蘇ってきました。そして、「何があっても、笑顔を買おう」と決心したのです。

それからは、行ける日は必ず病院へ足を運び、姉と父が少しでも元気になるように楽しい話をしたりと私なりにできる事を尽くしました。自由に食べられるようになった姉に、自分のお小遣いでケーキを買って持っていったりもしました。そして、その度に見せる家族達の笑顔に「2人が居なくても頑張ろう」という気持ちが強くなりました。時には、父の手術の付き添いで母が帰れず、私は知り合いの方の家に泊まらせてもらったりもしました。少し寂しい思いもしましたが、入院生活を頑張る2人とそれを支える母の姿を思い出すと、そんな思いは無くなります。そんな生活を続けて約3か月が経ち、ついに家族4人がそろいました。沢山の困難と戦ったからこそ感じる家族の絆はかたく、強く、素晴らしい宝物だと実感しました。

今思い出すと、本当に長い道のりだったなあ、と思います。そして、この経験を踏まえて私は、大切なことは「前向きに進むこと」と伝えたいです。そうすればきっと、家族はより明るい道が歩めると思います。

## 入選

# あかちゃんがやってきた

広島市立牛田小学校

1年 土 橋 令 奈

わたしがようちえんのねんちょうのふゆによるねていると、お父さんにきゅうにおこされました。おかあさんのおなかがいたくなってきたよ。あかちゃんがもうすぐうまれてくるよとあいずしているよとお父さんがおしえてくれました。おとうさんとおかあさんでびょういんへいっているあいだ、おばあちゃんと2さいのいもうととわたしで、るすばんをしました。

つぎのひのあさになってもお父さんは、かえってきませんでした。わたしは、はやくおかあさんにあいたかったです。しばらくするとお父さんがいえにかえってきました。「おかあさんのおなかのなかからあかちゃんがうまれたよ」とお父さんがおしえてくれました。それからすぐにびょういんへいきましたがあかちゃんはいませんでした。おかあさんは、あかちゃんをうんだのでつかれてねていました。おなかのなかにいるときからあかちゃんにあうのがたのしみでした。あかちゃんにあえなくてざんねんでしたが、わたしは、あきらめてようちえんへいきました。ようちえんがおわってびょういんにかえるとあかちゃんがいきました。あかちゃんのおおきさは、わたしのてのひらふたつぶんぐらいでした。はじめてみたあかちゃんは、じぶんがおもっていたあかちゃんとはちがいしました。かおがあかくてはなにしろいぶつづつがあって、かみがみじかくて、てもあしもほそくてしわしわだったからです。でも、はじめてだっこしたときは、うでのなかにすっぽりはまって、なんだかあたたかいきもちになりました。

うまれたばかりのあかちゃんは、1にちほとんどをねています。おなかがすいたよ。ねむたいよ。おむつがよごれてきもちわるいとないてしらせます。ねるかなくかのどちらかなのでたまにわらったり、きょとんとしたかおをして、ころころかおをかえるときは、かわいいです。すぐくちいさなてで、ゆびをにぎってくれたときは、うれしかったです。

あかちゃんは、いま8かげつになり、てもあしもおにくががついてむちむちになってきて、じぶんがおもっていたあかちゃんになりました。つまかりだちをしたり、はいはいでうごきまわるようになりました。あかちゃんは、ゆかにおちているちいさいものをつかんでたべるので、ずっとみていなければいけません。わたしは、おかあさんからちいさいおかあさんとよばれています。ちいさいおかあさんとして、あかちゃんがベッドからおちそうになったときはささえてあげたり、ほんをよんだり、ないているときは、あやしてあげたいです。おおきくなったらさんしまいで、ちょーくをしてあそんだり、おりょうりをいっしょにつくったり、ケーキをつくったり、いつもなかよしさんしまいでたいです。



# 入選 いつもいっしょに

東広島市立龍王小学校

2年 <sup>なが</sup>長 <sup>わ</sup>和 <sup>みな</sup>湊 <sup>と</sup>斗

「家ぞくっていいなあって思うのは、どんなとき。」

とお父さんに言われました。ぼくは、しっかり考えました。だけど、なかなかこたえられませんでした。なぜなら、こんなことは考えたことがなかったからです。すると、お父さんが

「いっしょに何をするときがいいなあって思う。」

と言いました。ぼくは、「あっ」と思いました。ぼくが思いついたことは、三つありました。

一つ目は、きょうだいぜんいんとあそぶときです。ぼくにはきょうだいが4人います。兄と弟と妹がいます。兄は5年生です。いっしょにサッカーをしたり、キャッチボールをしたりします。兄は、サッカーやべんきょうをおしえてくれます。けんかはよくするけどほんとうは、やさしい兄です。弟は、3さいです。いっしょにものまねをしたり、おもちゃであそんだりしています。弟は、いつもぼくのいいところもわるいところも、まねをします。だからお手本になるように気をつけています。妹は、0さいのあかちゃんです。いっしょに何かすることは、まだできません。いっしょにいてだけで、あたたかい気もちになります。妹は、かわいくてまるでてんしのようです。

二つ目は、いっしょにごはんをたべるときです。ぼくの家では、家ぞくぜんいんでごはんをたべています。お父さんは、

「今日学校で何をしたん。」

と言います。お母さんは、

「ごはんおいしい。のこさずたべてね。」

と言います。きょうだいは、いろいろお話をしながら、楽しそうにたべています。みんなでたべるごはんは、とてもおいしいです。あしたもがんばる気もちになります。

三つ目は、家ぞくでいっしょにねることです。ぼくの家では、リビングにふとんを3まいしいて、すきなばしょにみんながねています。お母さんのとなりには、弟と妹がねています。よる10時になると、

「しゃべったらまげゲームスタート。」

とお母さんが言います。ぼくは、心の中でまだあそんだり、しゃべったりしたいと思います。だから、いつも楽しい気もちでねています。

ぼくの家ぞくのいいなあって思うところは、何でも家ぞくみんなでいれば、楽しくなることです。まい日、いっしょにあそんだり、ごはんをたべたり、ねたりすることは、あたりまえのことです。あたりまえのことでも、いっしょにいてだけで楽しくなる家ぞくのことを、ぼくは大すきです。ずっといっしょにいたいです。

## 入選

# 仕事でがんばるお父さん

東広島市立小谷小学校

3年 八 方 陽 一

お父さんは、じどうしゃの中のエンジンというぶひんを作っています。

会しゃは、れいぼうがまったくきかないので、さぎょうぎ2まい分ものあせがでるそうです。いつもかえってくると、

「今日も、よくはたらいたな。」

と言っています。ぼくはその動きかたを見てすごくつかれているんだなと思います。毎日、ぼくがおきる前に、仕事にいて、ぼくがねた後にかえってきます。ぼくだったら、そんなにあついでところで長いじかんはたらけません。きっと、会しゃにいったら1分もしないうちにギブアップして、すぐ家に帰ると思います。

なんでそんなにはたらくのかふしぎになってきいてみました。お父さんは、

「車をあいしてくれる人の、えがおのためにははたらいているんだよ。そのためには、お父さんたちが、いいかげんなことをせず、一人一人ががんばって、いい車をよの中にとどけることがだいじだと思っているんだ。」

と言っていました。1月に何万台も車をつくってるけど1台でもふぐあいをだすと、会しゃのイメージがかわるからがんばっているそうです。

ぼくはいままで、人生ゲームをしていても、と中でねるお父さんを見て、まじめにやらずにふざけてねているのかと思って、むかついていました。全く早く帰ってきてくれないし、ほとんど休みがなくてあそべないし、あえる時間がみじかいので、

「ちゃんとしごとをしているのかな。会社でおこられているから、長くなっているんじゃないかな。」

としんぱいしていました。だけどじっさいは、車をかってくれる人みんながえがおになれるようにどりよくしているからかえりがおそいことがわかりました。

本だなや、くつばこ、つくえなど、お父さんは、なんでもつくれるし、せんしゃ、くさかり、まきわりなどなんでもできて、ぼくからみたらヒーローです。でもお父さんも、まえは、せんぱいがすばやくぶひんをくみたてるのにおいつくことができなくて、くやしかったようです。ぼくも、これから力をつけて、お父さんみたいにつよくなりたいたいです。

お父さん大好きだよ。また車をかう人みんながえがおになってくれるエンジンをつくってあげてね。



## 入選 わが家へようこそ

呉市立荘山田小学校

3年 藤本真凛

わたしは、妹が二人います。一人は、二つ下の妹で、もう一人は、わたしが1年生の時に生まれました。

妹をにんしんしているお母さんのおなかは、まんまるでとても大きかったです。

「真凛、早くきて、おなかさわってごらん。」

とお母さんによばれて、走って行っておなかをさわると、

「ポコポコ、ニョキ。」

と妹がおなかの中で、動いたり、手足をのぼしたりしていることが分かり、とてもかわいいと思いました。

妹は、てい王切かいで生まれることがきまっていたので、わたしも、すぐ下の妹も、お父さんも、休みを取ってお母さんのびょういんへ行きました。お母さんは、

「そんじゃあね、赤ちゃん、さわらせてもらいんさいね。」

と言って手じゅつ室へ行きました。

わたしは、

「お母さんも赤ちゃんも大じょうぶかな。」

と、心ばいな気持ちと、赤ちゃんが生まれるのが楽しみな気持ちで、心ぞうがドキドキ早く動いていました。

すると、かごしさんが、とう明なはこをおして来てくれました。

「おめでとうございます。元気な女の子です。」

と言いました。

はこをのぞくと、赤ちゃんが目をつむっていました。しわしわで、かみの毛はベタベタで、赤むらさきみたいな色で、わたしが思っていた赤ちゃんとはちがって、びっくりしました。

(わたしも、こんな赤ちゃんだったのかなあ。)

と思いました。

でもすぐに、かわいいという気持ちでいっぱいになりました。わたしは、妹をじっと見つめていました。

すぐに家に帰って来るのかと思っていましたが、妹はいきをするのが上手ではないようで、お母さんがたいいんしても、妹はまだ入いんしていました。お母さんは、おなかを切ったばかりなのに、せんたくしたり、りょう理をして、毎日何回も車を運んで、妹におっぱいをあげに、びょういんへ行っていました。

妹の名前は、「夏葉」ときまりました。夏に葉っぱがどんどん育つように、妹も、いきをするのが上手になって、どんどん育つようにというねがいがこめられています。

そのおかげで、夏葉のたいいんがきまりました。それを聞いたわたしと、すぐ下の妹は、けんかをしていたこともわすれ、だき合って、ジャンプしてよろこびました。

「夏葉とやっといっしょにくらせる。」

お父さんと、お母さんと、すぐ下の妹とわたしで、帰りの車は、夏葉も合わせて、5人で帰りました。

その時の夏葉は、目をあけて、かみの毛もサラサラで、はだの色もわたしと同じで、かわいいなき声でした。

夏葉は、2才になりましたが、お母さんが一生けんめい、おっぱいをあげていたからか、まだ、おっぱいが大きすぎで、少しこまることがあるけれど、とてもかわいくて、大切です。

## 入選

# お父さん、あのね

広島市立牛田小学校

5年 佐伯 百合子

「早く起きなさい。」

「早く着替えなさい。」

「早く食べなさい。」

「早く勉強しなさい。」

「早くねなさい。」

もう、ガミガミガミガミ。ガミガミガミガミ。よくあんなにガミガミ言えるもんだ。

私は、友達のお父さんもうちの父と同じなのかなあと、友達に聞いてみました。すると、その友達は

「私のお父さんは、優しいよ。たまに、すぐおこるけどね。」

と言いました。

「いいなあ。うちの父とは大ちがい。うちの父はガミガミ大将。お父さんなんかきらい。」

私は、どうして、うちの父は、あんなにガミガミ言うんだらうと思ひ、学校のたんじんの先生に聞いてみました。

先生は

「それは、あなたのことが大好きだからだよ。もし、お父さんが、あなたのことがきらいだったら何も言わないよ。」

とおっしゃいました。

私は、父のことを考えてみました。確かに、父は、家族のためにがんばって働いてくれています。特に、今年の夏はごう雨災害で道路が流され、父が通きんに利用しているバスが運休になり、朝、いつもより早く起きて、フェリーで通ったりしてがんばってくれています。母から聞いた話では、ごう雨の日、バスが止まってしまい、なんとかして家に帰ろうと最終のフェリーに乗り、その後もタクシーがなかなか見つからず、必死の思いで帰ってきたそうです。そして、姉や私のね顔を見て、がんばって帰ってきてよかったとも言ったそうです。

また、父は、学校の宿題のヒントがないかとあっちこっちの図書館に連れて行ったりもしてくれているなあとも思いました。

私は、父のことを口うるさいと思ひ、きらっていましたが、それは先生がおっしゃったように、私のことを思ってくれているからだと思ひました。

「お父さんありがとう。でも、ガミガミしないで。」



## 入選 お母さんのいない生活

東広島市立三ツ城小学校

5年 <sup>きの</sup>木 <sup>した</sup>下 <sup>ひまわり</sup>向日葵

わたしのお母さんは、足の付け根の骨が壊死してしまう「突発性大腿骨頭壊死症」というなん病にかかりました。

さいわい、命に関わる病ではなく、わたしはすごくほっとしました。ですが、2か月の入院生活を送らなければいけないことが分かり、どうようをかくせないでいました。お母さんが2か月間いないさみしさと不安を考えると、頭がこんらんしました。ですが、それからは、毎日があっという間に過ぎ、いつの間にか、入院の4月17日になっていました。お母さんによけいな心配をかけたくなかったので、笑顔で見送りました。

それからというもの、毎日が大きいそがしになりました。お父さんと2人きりだと、さすがに家庭がまわらないため、急きょおばあちゃんに家に来てもらうことになりました。おばあちゃんとの生活は、なんだか新せんで新しい気持ちでした。ですが、おばあちゃんにここでの生活を色々教えなければいけないため、少しいら立っているときもありました。

そして、手術の日。いつもよりそわそわした気持ちで1日を過ごしました。その後、無事手術が成功したと聞いて、安心しました。退院は6月18日。それまでこの生活でがんばろうと強く決心しました。5月に入ると、お母さんのいない生活になれてきました。しかし、この頃、学校では運動会に向けて本格的な練習を始めたばかり。運動会、お母さんは来るのか、お父さんにたずねてみると、

「お母さんは、車イスで来るよ。」

と言ったので、すごくうれしかったです。そして、運動会の日がやってきました。今までの成果をしっかりと家族に見せることができました。昼食の時間は、家族全員が集まって、話をしながら食べました。運動会から帰って、お母さんから電話がきて、すごくほめてくれました。がんばってよかったなと心から思いました。そして、数日後、お母さんのお見まいに行きました。お母さんが病院で元気に過ごしていると思うと、わたしもがんばろうと勇気をもらえました。そして、あっという間に2か月が過ぎ、退院の日になりました。おばあちゃんに2か月家にいてくれた感しゃを伝え、朝、学校に行きました。わたしは、学校から帰るときもお母さんのことで頭がいっぱいでした。帰ると、お母さんが帰っていて久しぶりに家にいて、安心しました。

わたしは、このお母さんがいない2か月間を通して、色々なことで成長したのではないかなと思いました。それまではいつも色々なことをお母さんにたよってばかりでしたが、今はちがいます。お母さんの足が不自由な分、色々なことができるようになりました。この経験はわたしを強くさせてくれた体験になったなと思います。

「眞子の家は大丈夫か？怖くなかったか？」

おじいちゃんは、シワシワの真っ黒い手で私の頭を何度もなでてくれた。あの日から1週間たって、やっと会えたおじいちゃんは、自分のことより私の心配ばかりして、電気の通っていない冷ぞう庫からぬるい缶ジュースをくれた。7月6日の夜から私の知っている町が数時間で変わってしまった。

「もしもし…そっちはどう？」

「もう少しで、川の水があふれそう。」

ひっきりなしに続くラインの着信音と電話。でも、それ以上に耳にひびくベランダ雨どいの音。ゴボッ、ゴボッと今まで聞いたことのない音をたてていきおいよく流れていく。雨というより、大粒の水の矢の音と、テレビから流れる速報で、あの日の夜は、音の洪水だった。私は、いつもとちがう夜を感じながら、明日のことを考えて早めにベットへ行った。ベットに入ると

「明日は雨で、バレーボールが中止になりますように。」

心の中で願いながらねむった。一夜明けていつもなら母の声で、起きるはずの朝が、自然に目が覚め、焦って時計をみると、すでに8時半を過ぎていた。やったーと思いながら母の所に、走っていった。

「お母さん、練習は中止になったん？」

おはようよりも先にそのことを確にんした。母はけわしい顔とイライラした様子で

「それどころじゃないよ。大変なことになるとる。」

それでも状況がよく分からず、私はテレビの声につられてリビングに行った。テレビの中の向こうの世界は、ドラマのようで、非現実的な様子ばかりだった。なんとなく家の横を流れる黒瀬川が気になり、他人事のようにパジャマのまま外に出てみた。

「お母さん。川が大変なことになるとる。」

目の前の川が、茶色いドロ水になり、木やたく山のゴミと一緒に今にもあふれそうに流れる様子にあわてて部屋にもどった。母は、一人で住んでいる本郷のおじいちゃんに電話していた。本郷は、ひ害がひどく空港周辺は土砂くずれで通行止め。沼田川がはんらんし、2号線一帯は家も、店も水につかって、本郷に入る道は完全にない状態。電気も通らず、断水で水もない。母から聞いた話だった。私のおじいちゃんは、去年の5月におばあちゃんがなくなってから、ずっと元気がなく、毎日泣いているとよく母から聞いていた。私は、おじいちゃんの笑う回数が少しでも多くなればと、運動会にさそったり手紙をよく書いていた。あの日から1週間たってやっと本郷に行った。たくさんの水と、缶づめ、母が作った料理を持って一緒に行った。いつもは、30分で着く道のりを1時間半かかった。と中、道路がもり上がって穴が開いた地面を横切り、本郷インターの近くでは、山がくずれ、ドロと木と砂とゴミが通行のじゃまをしていた。道路のはしは、まだドロ水がいきおいよく流れていた。母の友達の家と教えられた場所は、どの家も家具とたたみ、電化せい品が道路ぞいに出され、2階建ての家のかべがうす茶色と白の2色にそまっていた。母は、ため息をつきながら車を走らせた。初めて見る世界を過ぎたころ、やっとおじいちゃんの家についた。

家に着いたら、水を運んで…道路の砂をはいて…はいて？…おじいちゃんに声をかけて…なんてかけよう…たくさんのことを考えた。車のドアが開いたと同時に

「よう来てくれたの。眞子は大丈夫だったか。」

そこにおじいちゃんは、立っていた。

シワシワの真っ黒い大きな手で私の頭を何度もなでてくれた。そして、母と私とおじいちゃんは、ぬるい缶ジュースを飲んだ。



## 入選 夫婦って面白い

東広島市立寺西小学校

6年 津川 真衣

私の両親は、正反対の性格だ。き帳面できれい好きだが楽観的な父と、おおざっぱで片付けができないが神経質な母。2人のおかしな性格も不思議だが、こんな2人が24時間一緒にいるのはもっと不思議だ。

私の両親は、居酒屋で一緒に働いている。こんな2人だから仕こみの手伝いに行くと、常にケンカをしている、こんな2人を見ていると、夫婦って面白いなと思う。こんな状況でよく15年間一緒にいるかと思うと、私には絶対無理だと思う。

両親はニュースを見ながらも、ちがう意見で話をしている。例えば、大阪北部地震の報道番組を見ている時、一人のキャスターが

「交通が混乱している中、会社を休業するなど企業側も考えてほしい。」

と言っているのを聞いて、母は、

「本当そう。こんな時に仕事に行っても仕事にならない。休みにしたら交通じゅうたいもさけられ、きん急車両もスムーズに進むよね。日本人は、こんな時でも働く人種なんよね。」

と言っていたが、父は

「そんな人種だから日本の企業は、回っているんだと思う。お前みたいな考えの人ばかりだと、こんな時だれも仕事に出ないと言ってそれこそ大変な事態になる。」

と言っていた。母はなっ得した顔をしていた。

また、西日本豪雨災害の時、道路の寸断により食料やガソリンなどの物資が届かなくなると言った報道を聞くと、母はガソリンをついで食料を買いこんでいた。ふ段から災害に心配な母は、ある程度の食料品を家に置いていたのに神経質な母は、それに輪をかけて買い物をしてきた。母は父に、

「ガソリンついどった方がいいよ。」

と言うと父は、

「大丈夫よ。無くなりゃせんよ。」

と言って軽くかえしていた。次の日ガソリンスタンドはガソリンをつぐ人でどこも長だの列だった。母は父に、

「だから、言ったじゃん。」

と険しいけど、どこことなく勝ちほこった顔をしていっていた。

私の両親は性格がまったくちがう2人だからこそ、ちがった意見や考えを聞きおたがいの足りない部分を支え、しげきしながら生活していると考え、私の中で2人の関係はすごいと思うようになった。

なにより最近変わったことは、今まで面白いと思ったことのなかった情報番組などが、面白いと思うようになった。いろいろな意見で分かれ、いろいろな考え方が聞かれる番組は私の両親を見ているようで楽しい。

私の両親には、これからもケンカしながらなかよくすごしてほしいと思う。

## 入 選

# 大好きな神楽と家族

三次市立作木小学校

6年 藤 岡 千 尋

私は、家族で伝統文化の神楽をしています。父は、大だいこ。1番目の弟は、神。2番目の弟は、手打ちがね。私は笛です。母は、衣しょうの着付け、飲み物の準備、ビデオ撮影などを担当しています。

家族で神楽を始めるようになったのは、伊賀和志神楽団で活やくしている父の影きょうです。私や2人の弟達は、小さい時から、父がおにになりきって力強くまう姿や、大だいこをたたきながら大きな声で歌う姿を見て、(かっこいいなあ) と思っていました。

父にあこがれをもっていた私達は、2年前に子ども神楽団が結成されたことがきっかけとなり、神楽を始めることになりました。

神楽を始めてからは、(早く父や弟達といっしょに、ぶ台に立ちたい) と思って一生懸命練習しました。先にぶ台に立つようになった弟達が、お客さんからたくさんの拍手をもらっている姿を見ると、(私も負けてられない) と思って、もっと練習をがんばりました。

初めて大きなぶ台に立った時は、手がふるえてどうなるかと思いました。スポットライトが当たり、最初のふきながしをする時、笛の音がふわっとホールにひびきわたったしゅん間、みんなが私に注目していることがわかり、ますますきん張しました。でも、父がたたくたいこの音と歌声が聞こえてきたので、(私は一人じゃないんだ) と思い、力いっぱい笛をふきました。私のとなりでは、4才の弟が手打ちがねをたたくところが見え、気合いが入っていることが伝わってきました。神役の2年生の弟が、真けんな顔でまっけてやる気が伝わってきました。私は、と中でしんどくなった時もあったけど、父や弟達の姿を見て、(ここを乗り越えないといけない) と思って精一杯ふくことができました。私が最後まで力を出しきることができたのは、家族のおかげだと思います。

父は、子ども神楽団の練習では、とてもきびしいです。家での父とは全然ちがいます。それは、私達に神楽を上手になってほしいと思っているからだだと思います。幕から出る時や、あいさつの仕方など、細かい事も厳しく教えてくれます。父は、神楽を通して、将来私が大人になった時に役立つ事を教えてくれているのだと感じています。

私は笛をふいている時は楽しいし、神楽の事が好きです。だから、家族みんなで大好きな神楽ができることをありがたいと思っています。

これから、家族みんなでたくさんの大会に挑戦して、大きな拍手をもらったり、神楽が楽しいと思ってもらったりすることが、私の夢であり、家族みんなの夢です。



## 入選 弟のいないプール

廿日市市立野坂中学校

1年 <sup>かみ</sup>神 <sup>おか</sup>岡 <sup>わ</sup>和 <sup>かな</sup>奏

私の家には今、弟がいません。父と母と妹と私だけです。弟は、私が部活へ行った後に極楽寺のキャンプに行きました。午前には部活があったので実感がありませんでしたが、家に帰ると妙にシーンとしていて、あぁいないんだな静かだなと思いました。いつもうるさい弟がいなくて勉強がはかどったのでうれしかったのですが、ちょっとさみしいような気がして、急いで頭からふりはらいました。

次の日の朝、父が、

「今日、プールに行く？」

とさそってくれました。私と妹はうれしくて、ぴよんぴよん跳びはねました。すぐに準備をして出発しました。母は用事があったのでいけませんでしたが、弟がいないので車が広く感じてのびのびと乗りました。いつもは弟と話すのですが、今日は妹と話しました。妹とは7歳も離れているので、私が内容を合わしました。すると正月にみたテレビ番組の話になって、3人で大笑いをしました。弟がいたら、自分が忘れていたことも覚えていてもっと楽しくなっていたかもしれないなと頭をかすめました。

プールに着きました。水がキラキラと輝いています。父を見つけました。

「あれ、悠は？」

「今日おらんじゃん。なにゆっとな。」

すっかり忘れていました。

「じゃあ、泳ぐコース行ってくるね。」

私は父に伝えて泳ぐコースに入りました。今日は人が多いためか、ぎりぎり25メートルが泳げるような人がたくさんいて、ゆっくりでしか泳げません。しょうがなく普通のプールに入り、弟と遊ぼうと姿を探しました。しかし、当然ながら見つかりません。あ、いないだったと苦笑するばかりです。面白くないので、父と妹の所へ行きました。見つからないように底近くで泳いでバツと顔を上げます。

「わっ。」

と声を上げてびっくりする妹を見て、すごく面白かったです。だけどいつもより楽しくなくて、何故かさみしく感じました。

「ただいま。」

「おかえり。」

母の声と弟の声がしました。私はくつをそろえるのも忘れて弟の所へ走って行きました。

「あのね、今日プールに行ったんだ。」

「ねーちゃん、後にして。寝させてよ。」

「うるさい。」

私の反応を見た母が笑います。つられるように5人で笑います。今、この5人で笑っているのがすごく幸せなことだと感じました。

「しっかり捕れつつとるだろー。」

「こしをおとせ。」

「インパクトがちがう。」

今日もまた始まった。野球をすると現れる雷オヤジ。始めは楽しくキャッチボールをしていても、突然怒りだし、ネチネチ、ガミガミ説教を始める。急に怒りだすので、何がいけなかったのか分からず、ぼくはあっけにとられることがよくある。その姿を見てまた怒りだす雷オヤジ。ぼくは一体何で怒られているのだろうと心で思いながら荒れ狂う雷オヤジの姿をながめる。ただ一緒に野球をしていただけなのに。

ぼくが野球を始めたのは、小学4年の冬。反対を続ける父を説得し入部した。そのころのぼくはキャッチボールもまともに出来ず、バットもまともに振れなかった。そんなぼくに父は休日も仕事から帰ってからも遅くまで練習につきあってくれた。そのおかげでぼくは試合にも出れ、ホームランも打てるようになった。

そのころからだ。雷オヤジが現れるようになったのは。

「試合に出させてもらう以上本気でやれ。手を抜くな。」

そのころの口ぐせだったように思う。学年があがるにつれ、どんどん厳しくなる父の特訓と口調。言われてできない自分とそれに対して言われる事への腹立たしさで涙がでることも増えていった。それと同時に反発することも増えていった。ついこの間だ。いつものように雷オヤジにしかられたぼくは理不尽すぎる内容に腹を立て家での野球の練習を一切やらなかった。父と口を一切きかず、父が仕事に出るまで2階から降りず接する事をしなかった。すると、仕事に行く前に母へ、

「あいつは降りてこんのんか。野球はせんのか。」

と聞いたそうだ。そこで母はあえてかくさず、

「父ちゃんがおるけー降りてこんって言よったよ。じゃけ野球もせんのかじゃない。」

すると、父は悲しそうな顔をして仕事に出かけて行ったと後から聞いた。ぼくはそれを聞き少しかわいそうなことをしてしまったかなという思いがわいてきた。そして、実はあんなに怒りながらもぼくと一緒にする野球を楽しんでいるのではないかと、怒られながらもやるぼくを応えんしてくれているのではないかという思いもわいてきた。そんなことを考えると雷オヤジに怒られながらもやる野球も悪くないのかもと思えるようになってきた。腹を立てはぶてることもあるかもしれない。でも、一緒に野球をできる時間はかぎられているのでこの時間を大切にしたい。

雷オヤジとの特訓はこれからも続く。



## 入選 フラダンスと共に

広島市立東原中学校

1年 たつ ざき りゅう ぢ  
辰 崎 竜 地

僕は、姉とけんかしたり、父に怒られたりしょっちゅうする。でも僕は「もういやだ」とか「父にしかえししてやろう」と思ったことは、一度もない。たしかにそんなことが無いのが一番だ。でも僕はけんかしない＝仲が悪いとは思わない。そんなことが出来るのは家族同士の距離が近く、たくさんコミュニケーションがとれているからだ。

ぼくの家族は全員フラダンスをしている。そして、家族全員で一緒におどっている。最近では7歳の妹もステージでおどれる様になった。先日も、山口の周防大島のサタフラ（サタデーフラ）で朝から晩までおどっていた。

だが、イベントだけでなく家族で練習する時も、フォーメーションを考えたり、振り付けを工夫したり、もちろん一緒におどったりする。そのため家族とコミュニケーションをとったり、一緒にいる時間が長くなる。

つまり僕達の場合、家族の絆、距離をより深く、より近くしているのはフラダンスだといえる。

僕は2歳からフラダンスをしている。もうフラダンスをして11年になる。実は最初は僕、母、姉の3人でやっていた。でも、父は発表会や練習につき合っていたりしてくれた。それから妹が生まれ、興味が沸いた父もフラダンスを始めた。フラダンス歴では僕の方が先輩だが今ではもう父の方が熱心で、よく僕を練習に誘ってくる。さきほど話題に出したサタフラでも前日に振り付けについて笑ってしまう様なむちゃぶりをされて困った。

こんなこともあるけど、家族とおどるのはとても楽しい。それに先日のサタフラが大成功した時はみんなで喜ぶことができたしみんなで達成感を味わうことができた。

でもこれから僕は部活、姉は高校受験があり忙しくなる。だが、僕はどれだけ忙しくても家族でフラダンスをやり続けていきたいと思っている。

みなさんの家族はどうやって楽しく、仲良く家族で日頃過ごしているのだろうか。ルールをきめたりしているのだろうか。僕は家族で一つの習い事をすることをオススメする。家族で一つの習い事をする事で家族の時間が増えたり話題ができたり楽しみができたりするからだ。僕の家族の場合は、フラダンスで絆を深めたり距離を縮めたりすることができた。

僕達家族はこれからもフラダンスと共に歩んで行こうと思う。

今年の4月から姉が進学で家を出ました。母も転勤で帰りが遅くなり、私は晩ご飯を独りで作って食べるが増えました。これまでは食事中に話す相手がいたので、食事は貴重な団らんの時間でした。けれど、今は食事もすぐに終わってしまいます。

夏休みに姉が帰省した時、

「母さん、ピザトースト作って。」

と、姉が言いました。姉は母のピザトーストが大好きです。姉は、1枚食べると、

「もう1枚作られる？」

と、聞いて作ってもらい、嬉しそうに食べました。母は、姉に作り方を教えていました。

お盆とお正月、父の実家に帰省すると、祖母は、いつも同じ料理で私たちを迎えてくれます。それは、父の好きな料理です。ゴマ豆腐、ナスの煮びたし、牛筋と玉子の煮物。全部、祖母の手作りです。父はいつも、

「うん、うまい」

と、言いながら食べます。すると、祖父が嬉しそうに、父は子供の頃からゴマ豆腐のゴマを擦るのが上手だった事を話してくれます。そして、帰る時には必ず、祖母の作ったカレーライスを食べます。母が作るカレーはお店に売っているカレールウで作る普通のカレーだけれど、祖母のカレーはルウから作る世界に一つだけの、1年に2回しか食べられない貴重なカレーです。玉ねぎ7個をみじん切りにして、あめ色になるまでずっと炒め、色々な香辛料を加えながら時間をかけてコトコト煮たり、味を調整したりします。その間、祖母はずっと立って作ります。お肉がゴロゴロ入っていて、いい香りのするトロトロのカレーです。

けれど、ある夏から、そのカレーライスも食べられなくなってしまいました。その作業がとても大変で、祖母は腰が痛くて作ることができなくなったからです。

父は、祖母からカレーのレシピと大きなカレーなべをもらいました。今度は、父が祖母のカレーを作ることになりました。父は、子供の時から祖母のカレーライスを食べているので、祖母の味を覚えています。父は、祖母から聞いたカレーの作り方を書いた小さな紙を大事に引き出しに入れ、お正月の帰省に合わせて作るようになりました。

今年のお盆も、祖母のカレーライスはありませんでした。毎年食べていたことを思い出し、祖母のカレーが食べたいと思いました。

姉には、ピザトースト、父にはカレーライスのように、家庭の味は、家族の思い出と一緒に受け継がれるのだなと思いました。

私には、まだ特別な家庭の味はありません。けれど、祖母から受け継いだ父のカレーライスを時々食べたくなります。そして、私もいつかそのカレーを作りたいと思っています。今年のお正月、みんなで色々な話をしながら食べる父のカレーライスが楽しみです。



## 入選 本好き家族

広島市立宇品中学校

2年 伊 藤

はるか  
悠

私はどの家庭にもその家庭にしかない素敵な何かがあると思っています。けれど私は我が家の素敵なものを見つけられずにいました。

私の家族は全員本好きです。だから家族の間での話題も本のことについてが多いです。あの本が面白いとか、学校の朝読書の時間で何の本を読んでいるのかという会話をします。本は好きですがいつもというわけではありません。私が小学生の時には面白そうなおもちゃを沢山持つ友達を羨ましいと思い、それと同時に本が好きということが恥ずかしいとさえ思うようになりました。中学生になってからは、スマートフォン・携帯電話を持っている人の話を聞き、すごいと思うようになりました。そして、本が好きな自分に自信がなくなって行きました。確かに本や絵本は読むとその世界に引き込まれている魅力的なものだと分かっています。本が好きなのに変わりはないけれど周りの友達の持っているものと比べる自分がいました。そして勝手に本の価値を決めていたのです。さらに、本は一度読むとゲームのようにいくつかのパターンがあるわけでもなく家に置いていてもコレクションのようにしかならず、あまり意味がないと思っていました。

ある日、学校から帰ってきたら母が妹に本を読んでいた。面白そうだったので私も一緒になって聞きました。その本は以前も読んだことがある本で何だか懐かしかったので母にその本を見させてもらいました。すると本の最後に「5才になったはるかちゃんへお父さんとお母さんより」と書いてありました。5才になったばかりの私もこの本を読んでいたのだと分ると、何だか今とつながった気がして心が温くなりました。他の本のコメントも見なくなりました。以前からコメントがいろんな本に書かれているのは知っていました。本棚から探すとたくさんの本にいろいろなコメントが書かれていました。私宛てや、妹宛て。親からや祖父母から。たくさんの人が本を読み聞かせてくれたり、願いを込めてその本を贈ったりしてくれたことが分かります。改めて見るとこのコメントで今まで自分がどれだけ大切にされてきたかに気がきます。このことから本を大切に保管するのは、本に沢山の人の思いが詰まっているからと分かりました。それと同時に本の裏側に書いてあるコメントは私の家にある素敵なものだと気がきました。

その後、妹に「本を読んでもらって面白いの。」とたずねると「好きな本は何度読んでも飽きないでしょ。」と言われました。妹が言った本を何度読んでも飽きないということは本当なのかと疑問に思いました。そこで本当にもう一度本を読んでも、今までに読んだことのある本も面白く感じるのです。いくつかの展開のパターンがあるわけでもないのに何度読んでも物語が動きます。

私の家に本が沢山あること。それは恵まれている環境なのだと分かって良かったです。時にはなぜ私の家には本ばかりあって、他の友達が持っているゲームをいいなと見ていました。本なんか1回読んでしまっただけもう読まない。そう思っていたけれど本の面白さに気が付き、本が好きになれる家庭に生まれて、本と共に成長できた自分で良かったと思います。私に沢山の本を薦めてくれた両親に感謝し、本1冊1冊に込められている思いを受け取り私の家の宝物にしたいです。今では家に本があること、本好きな家族のことが自慢です。

## 入選

# 私がここにいるのは

広島市立中広中学校

2年 しば た り お  
柴 田 理 桜

私の家は母、父、姉、自分の4人家族です。ですが、私が産まれる前に母のお腹の中で亡くなった、赤ちゃんがいます。この話は、小さい頃から少しは聞いていたのですが、詳しく聞いたのは最近でした。

お腹に赤ちゃんができた時に、父と姉はとても喜んでいて、母のお腹の中ですくすくと成長する赤ちゃんが元気に産まれてくる事を心待ちにしていました。

ある日の定期検診で、お医者さんはいつもより念入りに見ていました。何かとと思っていたら、お医者さんに

「心音が聞こえない」

と言われ、赤ちゃんは亡くなってしまいました。母は、「なんで。今まで順調だったのに。どうして私がこんな目にあわなきゃいけないの?」と思ったそうです。検診の帰り道に、赤ちゃんが亡くなってしまった事を、父と姉になんて言えばいいのか、2人はどんな顔をするのか、本当は全て嘘なのではないかと考えながら、泣いたそうです。

それから数か月たって、母と父で話しあった結果、もう一人産む事を決心しました。また亡くってしまうのではないかと心配していましたが、無事に元気な女の子が産まれて、名前を「理桜」と名付けました。

無事に産まれてきてくれましたが、亡くなってしまった、もう一人の子の事を、母はずっと責めてきました。この事を母の友人に相談すると、

「あなたは何も悪くない。亡くなってしまった子は、もうそういう運命だったんだ。理桜ちゃんは元気に産まれてくる運命。運命は誰にも変える事はできない。だからあなたは何も悪くないんだよ。あんなに小さいのに、天に行ってしまうなんて、どれだけ神様に愛されているんだろうね。」友人はほほえみながら言いました。その言葉のおかげで、母は救われたそうです。

この話を聞いた後、私は亡くなってしまった子の母子手帳を開いてみました。途中で終わってしまっているその子の成長を見て、私はボロボロと涙があふれてしまいました。でも、その母子手帳が、亡くなった子がお腹の中で懸命に生きた「証」なんだと思いました。快樂のために、避妊をせず、子供をおろしてしまう人に、母はどうしても軽蔑してしまうそうです。私も、命を授かったのなら、責任感をもってほしいです。子供は母親にとって、唯一無二の存在なのに、自分の手で殺してしまうなんて、絶対に許せません。

あの子がいなかったら私はここにいませんでした。

「理桜があの子の分までしっかり強く生きていってほしい。」

と母は言ってくれました。私はこの言葉を心に秘めて生きていこうと思います。何事にも諦めず、夢をつかむために一生懸命努力しようと思います。あの子が、どうか天国で安らかに過ごせていますように。



## 入選 言葉の意味

東広島市立松賀中学校

2年 ほう さき ざら  
寶 崎

私はいつも思います。家族ってなんでこんなに口うるさいのだろう、と。でも、その理由に気付いたのはつい最近でした。

もう7年も前のことですが、私の親は帰りが遅いのでいつも祖父母の家に預けられていました。祖父母の家で宿題をしていると祖父がやって来て

「しゃんとせい。」「ていねいに書け。」

と、二言。私は嫌な気持ちになり、その場を無言で去ってしまいました。自分は自分なりにていねいにきちんとやっているのに、祖父にはそれが伝わっていないのだと思っていました。次の日もいつものように宿題をしていると、また祖父がやって来て

「言葉の意味が分からんやつはやらんでええわ。」

と、厳しい一言。私は意味が分かりませんでした。自分は一生懸命やっているというのに、いかにも自分がテキトーにやっているというような祖父の態度が気に入りませんでした。私はその時から

『おじいちゃんの一生懸命ってなに?』

と思うようになり、祖父にそのことについて尋ねてみようと思いました。ですが私が祖父にそのことを尋ねることはありませんでした。まもなくして祖父が末期の癌だと分かり、そのままあっけなく天国へ逝ってしまったのです。悲しみにくれないながら、その真相が分からないまま、いつのまにか6年という月日が過ぎていました。中学1年生の夏、学校の宿題で家族の絆に関する三行詩というものが出ました。久しぶりに家族のことについて思い浮かべていると、どこからかあの懐かしい声が聞こえてきました。その声の主は7年前に他界したあの祖父の声でした。これだと思い、あの時解き明かすことのできなかつた真相を解き明かすチャンスだと思い、すぐに母親に聞いてみました。すると母親は、驚いた顔をして

「素晴らしい人を祖父にもったね。」

と言ひ話を聞かせてくれました。それによると祖父が伝えなかったのは、

「おまえには人になく素晴らしい力がある。だからもう少しだけ努力をしてみなさい。」

と、いうことだったそうです。初めて祖父がこんなにも自分を思っていたということを知った瞬間でした。その時初めて祖父に感謝しました。

言葉には伝えれば伝わるものや伝えてもなかなか伝わらないものがあります。どう伝えるかによって人は喜んだり悲しんだりの喜怒哀楽を表すと思うのです。だからこそ伝えたいことは意地を張らず素直に言うべきだと私は思います。

「お母さんと正反対だね。」

私の母は頑固で一度決めたことは絶対に曲げません。飽きっぽく、あきらめやすい私と全く違います。

小学4年生の時、

「ピアノ休む、もうやめる。」

と言って部屋にこもりましたが、結局行かされました。おかげでピアノの試験、合格しました。

小学5年生の時、

「もう泳げるようになった、プールやめる。」

と言ってプールが始まる15分前までねばりましたが、もちろん行かされました。おかげでバタフライも泳げるようになりました。

小学生の頃は、

「この、わからず屋。」

と言うこともありましたが、中学生になって母のおかげで出来るようになったことがたくさんあることに気付きました。中学校生活は、母に感謝し、楽しく過ごしていました。そんなある日、事件が起こりました。

中学2年生の夏のことです。部活内でケンカが起こり、何人かの生徒で対立が起きました。ご問の先生も入り、何とかおさまったように思えました。しかし、部内の空気は悪く、私は部活に行きたくないと思いました。

家に帰って母にそのことを話し、

「明日、部活休んでもいい？」

と聞きました。今まで真面目に部活動に取り組んで来たのだから、1日くらい許されると思っていました。

しかし母はきっぱりと言いました。

「部活に行きなさい。」

と。

私は、

「何で。つらい気持ちになるからいやだ。お願い。」

と必死で言いました。

母は、落ち着いて静かに言いました。

「あなたはそんなに弱くてずるい人間だったの。ちがうでしょ。一度逃げたら、この先も逃げるようになるよ。大丈夫、大丈夫よ。きちんと、お友達と話して来なさい。」

その後のことはよく覚えてません。ただ、前よりもっと母のことが好きになったこと、部活の仲間と明るく話せたことは、はっきりと覚えています。

私の母はすごいです。いつも正しく、強い。明るくて優しく、いいところをあげだしたらきりがありません。

私は、母の頑固さをいつのまにか尊敬していました。母のような人になりたいと思いました。

これから、しんどいこと、苦しいことたくさんあると思うけれど、私なら大丈夫だと思います。

私、頑固で一度決めたことは曲げない人になりますから。



入選

「感謝」

呉市立呉中央中学校

3年 <sup>しお</sup>塩 <sup>み</sup>見 <sup>ゆりか</sup>優莉香

私は母と私を含め3人兄妹の4人家族です。小さいころから女手一つで私達を育ててくれています。と言っても、そう思えるようになったのはほんと最近のこと、それまでは感謝なんていう言葉を母に向けることなんてありませんでした。

私が13歳（中学1年生）になり、バスケ部に所属し、部活と勉強の両立を図っていた頃、人との衝突が原因で肩を壊しました。病院に行ったところ、日常生活もまともにおくれない状況で、小学2年生から続けていたバスケを辞めざるをえませんでした。私はもうバスケを諦めました。悲しみや怒り、苦しみや絶望（好きなバスケができない）と自分へ向けられた感情をどこへしまえばいいかわからずにいました。そんな時、元バスケット経験者であった母だけは何かか諦めていませんでした。医者にも無理だと宣告されても、片っ端から肩に関する情報を集め、知り合いから良い整体があると教えてもらい、通うようになりました。情報通りとても良い所ではありましたが、1回の料金はとても高く、離れた場所にあるため、行くのにも時間がかかりました。それでも母は「あなたのバスケをする姿が見たいから」と仕事も増やし、自分の時間さえも私のために費やしてくれて、私も希望を持つようになりました。1～2年かけ、肩の調子が良くなっていき、顧問と話し合って3年生の4月、バスケ部に復帰できました。私に与えられた4か月という時間はあっという間で、迎えた引退試合、観客席には母の姿。「あなたのバスケを見たいから。」頭の中を何度もよぎるその言葉を胸に全力をぶつけたその試合は、私達の忘れられない試合となった。

試合を終え、家に帰ると母は私に「ありがとう」と口にした。涙が出た。ずっと不安だった、バスケができんって言われて悔しくて、もどれてからのプレッシャーも大きくて、怖くて不安で胸が押しつぶされそうだった時、そばにいてくれたのはいつも母だった。見えんところで頑張ってる私のために必死になって、一番近くで支えてくれた。感謝しかなかった。今まで、父がいない寂しさから母にあたったり、仕事で忙しい母に文句や反論、時には暴言をぶつけ合ったりもした。けど決して弱いところを見せず、正面から私を見てくれる母はとても強く思えた。なくてはならない存在だと、少しずつ実感していくようになった。

今年高校受験を控えた私は、高校でもバスケをすると決めている。それが、今私にできる小さな親孝行だと思ってるから。大胆なことは大人になって働けるようになってからするとして、今は私のために頑張ってくれた母のために、母が望んでくれることを私が頑張っていきたいと思っています。私も将来、誰かのために必死になれる人間になりたい。私の母は私の見本であり、かけがえのない人。世界でたった一人の大切な人です。

## 入選

# 私のおじいちゃん

熊野町立熊野東中学校

3年 藤川 愛 茄

私の祖父は 20 年前に脳梗塞になり、右半分の脳が機能しなくなりました。それにより左手、左足がおもうように動かせなくなりました。祖父は左利きなため、左手が使えなくなって苦労したと思います。

私が生まれたときには、すでに左手、左足が使えず右手ではしを持ちご飯を食べたり、えん筆を持ち字を書いていた。だから私は、祖父はもともと右利きだと思っていました。私には分からない苦労をしたんだと今になって思います。

右半分の脳が機能していなくても、祖父は普通の生活をし、運動もしています。ご飯を食べる・服をきがえる・お風呂に入るなどの日常のことは、ほとんど一人でこなしています。両手が使えないとできないようなことでも、最初からあきらめずに挑戦し、努力します。さらに運動もします。卓球やプールで歩くといった運動を毎週必ずしています。自分にできることをコツコツ続けることができる人です。

祖父は車を運転することもできます。毎日のように車に乗りでかけています。卓球・プール・趣味のカラオケの練習も自分で車を運転して行きます。私が小さいときには公園にもつれていってくれました。今では、父や母がいないとき、いろいろな送迎をしてくれます。

そんな祖父のことを私は尊敬しています。そして、私の家族の自慢だと思っています。私も、祖父のように挑戦し、努力できるような人になりたいです。そして、自分の決めたことをコツコツ続けていきたいです。

周りの人も祖父の努力を認め、気にかけてくれたり手伝ってくれたりしています。私はそんな祖父の姿を見て、周りに努力を認めてもらえていてかっこいいと思いました。努力をすると周りも認めてくれるということを私は祖父に教わりました。

私は祖父から他にも、障害を持っている人への接し方も教わったと思います。何を気にかけてあげるべきかというような、なかなか分からないことを学ばせてくれました。これから、祖父から学んだことを生かしていきたいです。

人生の大先輩として、祖父にしか教えられないことをたくさん教えてくれました。祖父は私にとって、これまでも、これからも尊敬する人であり、自慢の家族です。

私は、努力をコツコツすることができるようになり、周りに認めてもらえるようになり、そして、祖父のような人になりたいです。

祖父は私の目標です。



## 入選 お母さんへ

広島市立宇品中学校

3年 もん門 でん田 はる明 な那

私には父親がいません。両親はまだ私が小さい頃に離婚して、今は母が女手ひとつで2歳下の妹と私を育ててくれています。私は母の辛さを知らずこれまで母に何度も、

「お父さんとお母さんのいる普通のくらしがしたかった。」

と、泣いてばかりでした。

父親がいないことをとても実感したのは保育園の運動会で子どもと父親が協力しながらゴールを目指すものでした。この時はまだ父親がいないことに対して、寂しさはありませんでした。けれど、小学校に上がり友達も増えみんなのお父さんの話を聞いているうちに、

「私もお父さんが欲しい。」

と寂しかったり辛い思いをすることもありました。

でも私以上に辛かったのは母の方でした。まだ私が小学校の時だったと思います。母は夜遅く仕事から帰ってきました。私はその音で目が覚めていつも通り、

「おかえり。」

と言おうとしました。けれどその日は言えませんでした。母はふとんにはいり、何を言ってるかわからないくらい小さく弱々しい声で泣いていました。小学生の私に母は弱音をはかなかったので、その時初めて知った母の気持ちでした。とても驚いたし動揺しました。子どもは親を選べない。一度、

「離婚しないように、自分のようなかわいそうな思いをする子がいなくなるように、適当に結婚して子ども産まないでほしい。」

母にひどいことを言いました。落ちついて考えると、今こうやって一生懸命育児や仕事をこなす母が適当な結婚も出産も、するはずがないと思いました。

今、私も妹も中学生になり自分たちでできることもたくさん増えたけどその一方で迷惑をかけることも増えました。言葉という道具は簡単に人を傷つけるし自分の思っていることを言葉だけで百パーセント伝えるのは難しいと思います。この15年の間で母に感謝することはたくさんありました。これからはちゃんと行動におこし普段伝えない感謝の気持ちも言葉にあらわそうと思いました。私は今、家族と過ごす日常生活や3人での旅行、くだらないことで笑ってられる時間がとても楽しいです。父親はいなくても、自分のことを大切に思ってくれている人がいるというのはとても幸せなことだと思いました。私が自分でお金をかせぐことができるようになったらまた3人で旅行に行きたいです。これからも家族でたくさんの思い出も作っていきたいです。お母さんいつもありがとう。

特選

広島市立宇品小学校

1年 <sup>ね</sup>根 <sup>づ</sup>津 <sup>なな</sup>七 <sup>み</sup>海



おおいたのおんせんにかぞくとはいった。

入選

東広島市立小谷小学校

2年 <sup>こん</sup>近 <sup>どう</sup>藤 <sup>りょう</sup>良 <sup>や</sup>弥



お父さんと、水やりをした絵をかきました。

広島市立翠町小学校

2年 <sup>まと</sup>的 <sup>ぼ</sup>場 <sup>そう</sup>創 <sup>き</sup>輝



キャンプに行って、ながれぼしを見たよ。

福山市立多治米小学校

3年 <sup>すぎ</sup>杉 <sup>た</sup>田 <sup>くく</sup>紅 <sup>ら</sup>桜



家族で打ち上げ花火を見に行きました。

広島市立宇品小学校

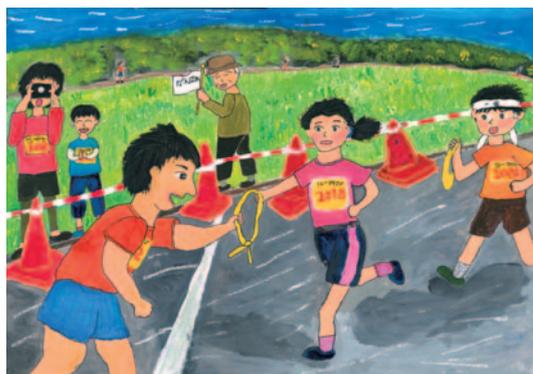
5年 <sup>おお</sup>大 <sup>にし</sup>西 <sup>な</sup>菜 <sup>つき</sup>月



弟が生まれおそろおそろ触ろうとしている所

広島市立古田台小学校

5年 <sup>たか</sup>高 <sup>はし</sup>橋 <sup>もも</sup>李 <sup>か</sup>佳



家族で力を合わせ表彰台に上がりました。

## 平成30年度「家庭の日」作文・図画募集要綱

- 1 趣 旨 健全で明るい家庭は、家族みんなで話し合い、家族みんなで楽しみ合い、家族みんなで力を出し合うことによって築かれます。  
青少年育成広島県民会議では、毎月第3日曜日を「家庭の日」として定め、明るい家庭づくりの運動を展開しています。  
この運動が広く地域に浸透し、多くの家庭で実践されることを願って、小・中学生が、家族や家庭について日頃思っていることや感じていること、家族と一緒に体験したことなどを作文や図画に表現した作品を募集します。
- 2 対 象 者 県内に在住の小・中学生
- 3 主 催 公益社団法人青少年育成広島県民会議  
4 後 援 広島県・広島県教育委員会  
5 協 賛 広島ロータリークラブ、広島南ロータリークラブ、広島東ロータリークラブ、広島東南ロータリークラブ、広島北ロータリークラブ、広島西ロータリークラブ、広島中央ロータリークラブ、広島西南ロータリークラブ、広島陵北ロータリークラブ、広島安芸ロータリークラブ、広島城南ロータリークラブ、広島廿日市ロータリークラブ、広島安佐ロータリークラブ、(敬称略、順不同)
- 6 応募方法  
作 文 ・ 400字詰め原稿用紙3枚程度とします。  
・ 縦書きとし、はっきりと書いてください。  
・ 題の次に、学校名・学年・名前(ふりがな)を記入してください。  
図 画 ・ 作品は4つ切りの画用紙とします。  
・ 画材は自由です。(クレパス、水彩絵の具等)  
・ 裏面の「図画応募用紙」に記載し、作品の裏に貼付してください。  
作品のコメントも忘れずに記載してください。  
注意事項 ・ 一人1点に限ります。  
・ 本人の作品で未発表のものに限ります。  
・ 提出された作品は、返却しません。  
・ 企業名や商号の入った作品は対象外となります。  
・ 作成指導に当たっては、作品に直接手を加えないようにお願いします。  
・ 図画は送付時に丸めないでください。
- 7 応 募 数 作品は応募校で事前審査し、作文・図画それぞれ各学年5名以内で応募してください。なお、作品を書いた児童・生徒全員に参加賞を贈りますので、作品の応募総数を明記してください。
- 8 応募締切 平成30年9月5日(水) 必着  
9 送 付 先 〒730-8511 広島市中区基町10番52号 広島県環境県民局県民活動課内  
(公社) 青少年育成広島県民会議  
電話 082-513-2742/ F A X 082-511-2173
- 10 審査方法  
(1) 予備審査は作文のみとし、関係行政機関の職員、(公社) 青少年育成県民会議職員が行います。  
(2) 事前審査は作文のみとし、学識経験者、関係行政機関の職員、(公社) 青少年育成県民会議職員によって構成する審査員が行います。  
(3) 作文・図画の審査会は、学識経験者、関係行政機関の職員、(公社) 青少年育成県民会議職員によって構成する審査員が行います。
- 11 表 彰 特選者は、青少年育成県民運動推進大会において、広島県知事賞の賞状及び賞品を授与します。入選者は、当県民会議会長賞の賞状及び賞品を後日送付します。
- 12 副 賞 特選者は、5万円の旅行券を贈ります。また、応募者全員に参加賞を送付しますので、必ず応募者の控えをお持ちください。
- 13 そ の 他 入賞作品は、当県民会議発行の入賞作品集や、機関紙「せとのあさ」に掲載するなど広く活用させていただきます。

## 審査員名簿及び審査要領

### ●作文の部審査員

藤原久美子 (公社) 青少年育成広島県民会議常務理事  
石田 睦子 三次市教育委員会社会教育委員  
寺田 純子 広島県教育委員会義務教育指導課指導主事  
中谷 成男 広島県公立中学校校長会幹事・東広島市立もみじ中学校校長  
宮尾 茂 広島県環境県民局県民活動課長

### ●作文の部審査要領

#### 1 選定方法

- (1) 特選(県知事賞)・・・3作品
- (2) 入選(会長賞)・・・上位20作品程度を選定する。

#### 2 審査の方法

##### (1) 事前審査

- ・小学校低・高学年, 中学生の部をとおして, 「家庭の日」の理解度, 感銘度, 論題にそつた論旨, 論点の整理, 表現力, 文の構成等を審査する。
- ・評点は10段階評価とする。
- ・特選を10点満点とし, 小・中学生をとおして, 特選3作品を選定する。
- ・入選は上位20作品程度を選定する。
- ・学年ごとに平均して選定しなくても良い。

##### (2) 審査会

事前審査の結果をもとに協議し, 相互調整して特選, 入選を選定する。

### ●図画の部審査員

濱田 昭法 元広島県教育研究会美術部会会長・元広島市教育研究会美術部会会長  
河村 陽子 広島県教育委員会義務教育指導課指導主事  
藤崎 綾 広島県立美術館主任学芸員  
藤原久美子 (公社) 青少年育成広島県民会議常務理事  
宮尾 茂 広島県環境県民局県民活動課長

### ●図画の部審査要領

#### 1 選定方法

- (1) 特選(県知事賞)・・・1作品
- (2) 入選(会長賞)・・・5作品

#### 2 審査の方法

- (1) 作品ごとに, 表現力, 構成力, 家庭の日の理解度等を審査する。
- (2) 候補作品を学年ごとに並べ, 審査員は1学年ごとに, 5点ぐらい選定する。なお, 各審査員同士が同一作品を選定しても良い。
- (3) 候補作品は必ずしも各学年から均等に選ばなくてもよいが, できれば小学校(低・中・高学年), 中学校のバランスを考慮する。
- (4) 審査員が全学年の作品を見た後, (2)で選んだ作品を全部並べ, その中から特選1点, 入選5点を協議により選定する。



## 平成30年度「家庭の日」に関する作文・図画応募校一覧表

中学校の部		作文					図画					応募 総数	参加 人数
番号	学校名	1年	2年	3年	計	作・参加人数	1年	2年	3年	計	図・参加人数		
1	広島市立古田中学校	5	5	5	15	152				0	0	15	152
2	三原市立第二中学校	1	2	2	5	5				0	0	5	5
3	三原市立久井中学校		1		1	2				0	0	1	2
4	三原市立宮浦中学校	5			5	87				0	0	5	87
5	広島市立城山北中学校				0	0	1			1	1	1	1
6	広島大学附属三原小学校				0	0	1	5	1	7	8	7	8
7	福山市立一ツ橋中学校				0	0	2	4	2	8	8	8	8
8	呉市立呉中央中学校	4	5	5	14	16				0	0	14	16
9	三原市立幸崎中学校	1	3		4	6				0	0	4	6
10	廿日市市立四季が丘中学校	5	5	5	15	20				0	0	15	20
11	広島市立瀬野川東中学校	3	5	2	10	10				0	0	10	10
12	竹原市立賀茂川中学校	1			1	1				0	0	1	1
13	呉市立被仁方中学校		1		1	1				0	0	1	1
14	熊野町立熊野東中学校		2	5	7	10				0	0	7	10
15	大竹市立小方中学校	1			1	2				0	0	2	2
16	呉市立両城中学校	3			3	3				0	0	3	3
17	広島市立宇品中学校	5	5	5	15	85				0	0	15	85
18	東広島市立松賀中学校	5	3	3	11	11				0	0	11	11
19	呉市立郷原中学校		3	1	4	4				0	0	4	4
20	広島市立五月が丘中学校		2		2	2				0	0	2	2
21	広島市立安西中学校	5			5	6				0	0	5	6
22	広島市立中広中学校	2	5		7	85				0	0	7	85
23	広島市立三入中学校		5		5	14				0	0	5	14
24	広島市立五日市中学校	5	1	5	11	11				0	0	11	11
25	廿日市市立大野中学校	1	3		4	4				0	0	4	4
26	廿日市市立阿品台中学校	5	5	5	15	19				0	0	15	19
27	広島市立三和中学校	2	5	5	12	62				0	0	12	62
28	広島市立東原中学校	5	5	5	15	18				0	0	15	18
29	広島市立日浦中学校	1	3	1	5	5				0	0	5	5
30	東広島市立中央中学校	3	5	1	9	36				0	0	9	36
31	福山市立鞆中学校		3		3	3				0	0	3	3
32	廿日市市立廿日市中学校	5	1		6	10				0	0	6	10
33	東広島市立安芸津中学校	1	2		3	3				0	0	3	3
34	呉市立横路中学校	5	3	5	13	24				0	0	13	24
35	東広島市立磯松中学校	1			1	1				0	0	1	1
36	廿日市市立野坂中学校	5	5		10	10				0	0	10	10
37	海田町立海田中学校	5			5	18				0	0	5	18
38	福山市立新市中央中学校	4	4	5	13	30				0	0	13	30
39	庄原市立庄原中学校	3	2	5	10	10				0	0	10	10
	合 計	97	99	70	266	786	4	9	3	16	17	283	803

— 発 行 —

公益社団法人 青少年育成広島県民会議

〒730-8511広島市中区基町10番52号

広島県環境県民局県民活動課内

TEL 082-513-2742

FAX 082-511-2173

URL : <http://www.hiro-payd.or.jp/>

あい さつ げん そく  
挨拶の4原則

あ <sup>あか</sup> 明るく

い いつでも

さ <sup>さき</sup> 先に (相手よりも)

つ <sup>つづ</sup> 続ける



ひろ げよう え が お わ  
広げよう 笑顔の輪